



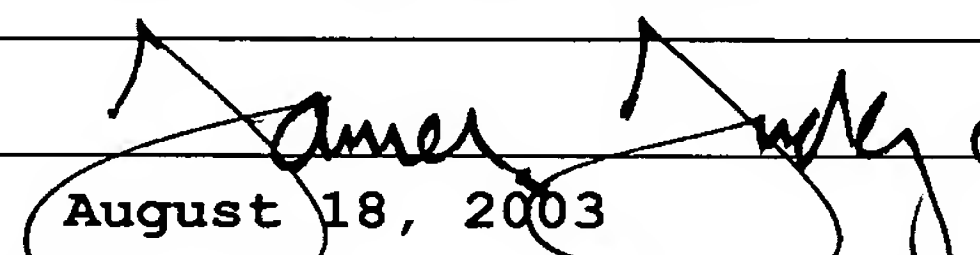
Please type a plus sign (+) inside this box → ☐

PTO/SB/21 (08-00)
Approved for use through 10/31/2002. OMB 0651-0031
U.S. Patent and Trademark Office: U.S. DEPARTMENT OF COMMERCE

Under the Paperwork Reduction Act of 1995, no persons are required to respond to a collection of information unless it displays a valid OMB control number.

TRANSMITTAL FORM <i>(to be used for all correspondence after initial filing)</i>	Application Number	10/604,648	
	Filing Date	August 7, 2003	
	First Named Inventor	Yoshinobu Sekizawa	
	Group Art Unit	(to be assigned)	
	Examiner Name	(to be assigned)	
Total Number of Pages in This Submission	45	Attorney Docket Number	38.001-AG

ENCLOSURES (check all that apply)		
<input type="checkbox"/> Fee Transmittal Form <input type="checkbox"/> Fee Attached <input type="checkbox"/> Amendment / Reply <input type="checkbox"/> After Final <input type="checkbox"/> Affidavits/declaration(s) <input type="checkbox"/> Extension of Time Request <input type="checkbox"/> Express Abandonment Request <input type="checkbox"/> Information Disclosure Statement <input checked="" type="checkbox"/> Certified Copy of Priority Document(s) <input type="checkbox"/> Response to Missing Parts/Incomplete Application <input type="checkbox"/> Response to Missing Parts under 37 CFR 1.52 or 1.53	<input type="checkbox"/> Assignment Papers (for an Application) <input type="checkbox"/> Drawing(s) <input type="checkbox"/> Licensing-related Papers <input type="checkbox"/> Petition <input type="checkbox"/> Petition to Convert to a Provisional Application <input type="checkbox"/> Power of Attorney, Revocation Change of Correspondence Address <input type="checkbox"/> Terminal Disclaimer <input type="checkbox"/> Request for Refund <input type="checkbox"/> CD, Number of CD(s) _____	<input type="checkbox"/> After Allowance Communication to Group <input type="checkbox"/> Appeal Communication to Board of Appeals and Interferences <input type="checkbox"/> Appeal Communication to Group (Appeal Notice, Brief, Reply Brief) <input type="checkbox"/> Proprietary Information <input type="checkbox"/> Status Letter <input type="checkbox"/> Other Enclosure(s) (please identify below):
Remarks		

SIGNATURE OF APPLICANT, ATTORNEY, OR AGENT	
Firm or Individual name	JUDGE PATENT FIRM
Signature	
Date	August 18, 2003

CERTIFICATE OF MAILING			
I hereby certify that this correspondence is being deposited with the United States Postal Service with sufficient postage as first class mail in an envelope addressed to: Commissioner for Patents, Washington, DC 20231 on this date: <input type="text"/>			
Typed or printed name			
Signature		Date	

Burden Hour Statement: This form is estimated to take 0.2 hours to complete. Time will vary depending upon the needs of the individual case. Any comments on the amount of time you are required to complete this form should be sent to the Chief Information Officer, U.S. Patent and Trademark Office, Washington, DC 20231. DO NOT SEND FEES OR COMPLETED FORMS TO THIS ADDRESS. SEND TO: Assistant Commissioner for Patents, Washington, DC 20231.



App. No. 10/604,648
Priority Document Submission

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

App. No. : 10/604,648
Applicant : Yoshinobu Sekizawa
Filed : August 7, 2003
Title : CHIROPRACTIC AIDS FOR USE ACCOMPANYING
CHIROPRACTIC THERAPY

Tech. Cntr./Art Unit : (To be assigned)
Examiner : (To be assigned)

Docket No. : 38.001-AG

Honorable Commissioner of Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

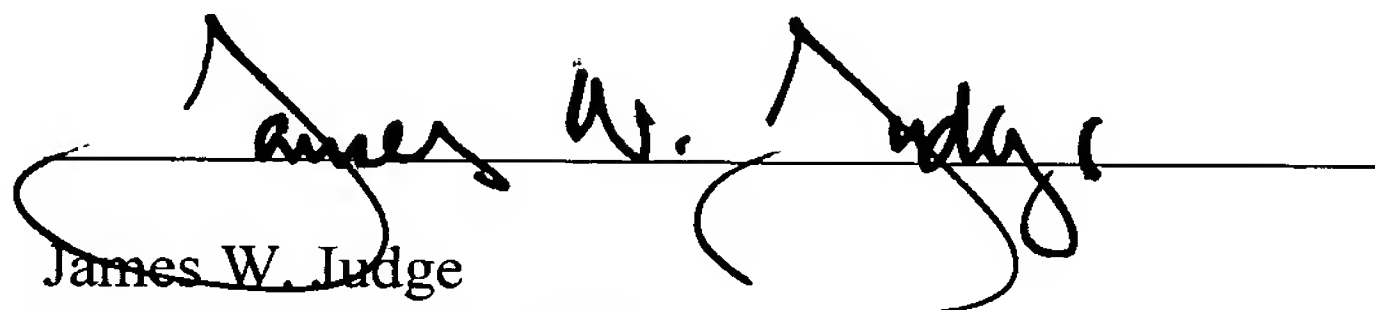
Submission of Documents in Claiming Priority Right
Under 35 U.S.C. § 1.119(b)

Sir:

To complete the claim made for the benefit of an earlier foreign filing date on filing the application identified above, Applicant herewith submits a certified copy of **Japanese Patent Application No. JP2002-248038, filed August 28, 2002.**

Respectfully submitted,

August 18, 2003


James W. Judge
Registration No. 42,701

JUDGE PATENT FIRM
Rivière Shukugawa 3rd Fl.
3-1 Wakamatsu-cho
Nishinomiya-shi, Hyogo 662-0035
JAPAN
Telephone: 800-784-6272
Facsimile: 425-944-5136
e-mail: jj@judgepat.jp

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年 8月28日
Date of Application:

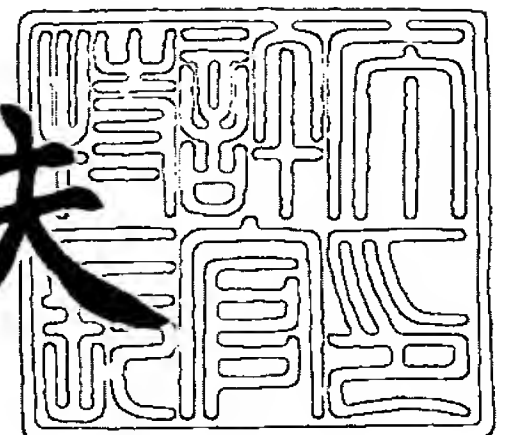
出願番号 特願2002-248038
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2002-248038]

出願人 有限会社誠心
Applicant(s):

2003年 7月25日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 P14010S-2

【提出日】 平成14年 8月28日

【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿

【国際特許分類】 A47C 27/00
A61G 7/057
A61H 37/00
B68G 11/00

【発明者】

 【住所又は居所】 茨城県猿島郡総和町上辺見 3 0 0 8

 【氏名】 関澤 義信

【特許出願人】

 【識別番号】 301012771

 【氏名又は名称】 有限会社 誠 心

 【代表者】 関澤 義信

【代理人】

 【識別番号】 100116735

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 大里 一幸

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 118475

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 整体治療の前後において使用する整体治療用補助具

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 整体治療の前後において使用する整体治療用補助具であって、断面形状が長辺と短辺と斜辺とを有する直角三角形からなる直角三角柱部材 1 a、1 b を 2 つ組合わせ、その直角三角柱の直角稜を回転自在、かつ、着脱自在に面ファスナー 2 で接合し、直角稜と短辺とからなる面の直角稜に対抗する端面に、各々面ファスナー 3, 4 を設け、短辺同士からなる面を面ファスナーで固定できるようにしたことを特徴とする可変三角枕 A からなる整体治療用補助具。

【請求項 2】 請求項 1 記載の可変三角枕 A において、

(1) 直角三角柱部材 1 a、1 b を 2 つ組合わせ、その直角三角柱の直角稜を回転自在に面ファスナー 2 で接合し、かつ、直角稜と短辺とからなる面の直角稜に対抗する端面に設けた面ファスナー 3, 4 により、短辺同士からなる面を固定して、可変三角枕 A として使用する、

(2) 直角三角柱部材 1 a、1 b を 2 つ組合わせ、その直角三角柱の直角稜を回転自在に面ファスナー 2 で接合し、かつ、直角稜と長辺とからなる面を重ね合わせて、可変三角枕 A として使用する、

(3) 直角三角柱部材 1 a、1 b の直角稜から、面ファスナー 2 を剥がし、各直角三角柱部材 1 a、1 b を単独に独立して使用する、

(4) 直角三角柱部材 1 a、1 b の直角稜から、面ファスナー 2 を剥がし、各直角三角柱部材 1 a、1 b を 2 つ組み合わせて、各斜辺同士または各長辺同士からなる面が重ね合わさらない状態で使用する、

(5) 直角三角柱部材 1 a、1 b の直角稜から、面ファスナーを剥がし、各直角三角柱部材 1 a、1 b の各斜辺同士または各長辺同士からなる面を重ね合わせて、断面形状が長方形または平行四辺形の形状で使用する、
ことを特徴とする可変三角枕 A からなる整体治療用補助具。

【請求項 3】 請求項 1 記載の可変三角枕 A において、

直角三角柱部材 1 a、1 b の三角形の面を除いた全ての面に、天然ゴム、合成ゴム、シリコンゴム等の弾性部材からなる滑り止めを設けたことを特徴とする請

求項 1 および請求項 2 記載の可変三角枕 A からなる整体治療用補助具。

【請求項 4】 請求項 1 記載の可変三角枕 A において、
直角三角柱部材 1 a、1 b の三角形状の面を除いた面に、
使用目的、使用上の注意、および代表的な使用例を印刷等により表示したことを
特徴とする請求項 1、請求項 2 および請求項 3 記載の可変三角枕 A からなる整体
治療用補助具。

【請求項 5】 整体治療の前後において使用する整体治療用補助具であって、
断面形状が楔形で、横幅が体幅程度であり、楔形の先端を脊柱の腰仙部に当てた
時に、臀部を覆う長さの短寸楔形マット、膝までの長さの中寸楔形マット、およ
び頭頂部を覆うまでの長さの長寸楔形マットの 3 種の楔形マットからなり、
中寸楔形マットには、上面に大腿部を受ける浅い長形の凹部を設け、
長寸楔形マットには、上面に後頭部を受ける浅い凹部を設けた 3 種の楔形マット
と、可変三角枕 A との組合わせとからなることを特徴とする請求項 1、請求項 2
、請求項 3 および請求項 4 記載の可変三角枕 A からなる整体治療用補助具。

【請求項 6】 整体治療の前後において使用する整体治療用補助具であって、
請求項 5 記載の 3 種の楔形マットを 2 種以上積み重ねて使用することを特徴とす
る請求項 5 記載の可変三角枕 A からなる整体治療用補助具。

【請求項 7】 整体治療の前後において使用する整体治療用補助具であって、
四角柱状の角枕をさらに組合わせて使用することを特徴とする請求項 1、請求項
2、請求項 3、請求項 4、請求項 5 および請求項 6 記載の可変三角枕 A からなる
整体治療用補助具。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明が属する技術分野】

本発明は、整体治療の前後において使用する整体治療用補助具に係り、特に脊
柱の矯正効果が得られるようにした整体治療用補助具に関するものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

従来、床またはベット上で使用する整体治療用補助具としては、膝枕や角枕が

ある。膝枕は、辺の長さが 2 5 c m × 2 7 c m × 3 0 c m の三角形断面であり、横幅の長さが 4 0 c m の三角柱状のものが市販されている。その具体例を図 1 0 の E に示す（以下、膝枕 E という。）。この膝枕 E は、仰臥時において、下肢の裏面に使用するものである。

角枕は、辺の長さが 8 c m × 1 3 c m × 3 3 c m の四角柱状のものが市販されている。その具体例を図 1 0 の F に示す（以下、角枕 F という。）。

また、他に、治療用ベッドに顔を入れる穴がない場合に使用する胸当てパッドがある。胸当てパッドは、断面形状が胸に当てる部分が楔形で、顔の部分が矩形であり、横幅が体幅程度であり、矩形部分の中央には顔が入る U 字形の切り込みが形成されている。これらの治療用補助具は、いずれも治療師が治療中に使用するものである。

【 0 0 0 3 】

人間の直立時においては、脊柱はそれを支える筋肉群によって、前後方向に湾曲していることが正常であり、腰仙部 Y の湾曲が特に重要である。

この腰仙部 Y の湾曲は、仙骨の前後に関わる筋群、具体的には、その一つとして腸骨筋があり、これらと腰椎の前後に関わる筋群、具体的には、その一つとして大腸筋があり、これらの筋群により、直立のバランスをとっている。

一方、仰臥位においては、脊柱は水平状態に近く、すなわち腰仙部 Y の前後方向は真直位に近くなることが正常である。

ところが、日常生活において、（a）同一姿勢を長くとることが多いと、同じ筋肉だけを使うため、筋肉疲労や筋肉の緊張が進み、腹筋や背筋の筋肉低下を引き起こす、また、（b）前傾姿勢で長く仕事をすることが多いと、しらすしらすのうちに、背筋やももの表側などの体幹伸展筋群を多用するため、腰椎の前方向への歪みが増大する。さらに、（c）座ったままの姿勢が多いと、腹筋やお尻の筋肉などの体幹屈曲筋群が低下しがちになり、相対的に体幹伸展筋群が強化され、これも腰椎の歪みを増大させる。

これらの原因が加わると、仰臥位になっても、直立時に働く筋群の緊張状態が維持されてしまうために、腰仙部 Y の前後方向湾曲状態が残ってしまう。

そして、前記筋群の緊張が残存し、脊柱の腰仙部 Y における湾曲状態が維持され

てしまうと、脊柱のゆがみを誘発し、種々の悪影響を与え、例えば腰痛等を引き起こす。

【 0 0 0 4 】

そこで、本発明者は、仰臥位における腰仙部 Y の前後方向湾曲状態を矯正し、脊柱を水平状態、すなわち腰仙部 Y の前後方向湾曲状態を真直位にするために、強制的に矯正するための補助具を発明し、特願 2 0 0 1 - 1 5 1 3 7 3 号として、出願した。

この発明は、整体治療の前後において使用する整体治療用補助具に係り、脊柱の腰仙部 Y における前後方向湾曲状態を形成するために働く筋群の緊張を解くための機能を備え、腰仙部 Y の前後方向湾曲状態を真直位に近く矯正ができるようにした整体治療用補助具を提供するものである。

即ち、断面形状が楔形で、横幅が体幅程度であり、楔形の先端を腰仙部に当てた時に、臀部を覆う長さの短寸楔形マット B、膝までの長さの中寸楔形マット C、および頭頂部覆うまでの長さの長寸楔形マット D 有する 3 種の楔形マットを用いて、脊柱の腰仙部における前後方向湾曲状態の個人差・体型差に応じて、1 種ないし 3 種を組合わせて使用することにより、腰仙部の前後方向湾曲状態を真直位迄の間で任意の状態に矯正することを可能とするものである。

また、断面形状が長辺と短辺とを有する直角三角形からなる直角三角柱部材を 2 つ組合わせ、その直角三角柱の直角稜を回転自在に接合し、直角稜と長辺、および直角稜と短辺とからなる面のそれぞれに、各々面ファスナーを設け、短辺同士からなる面、または長辺同士からなる面を面ファスナーで固定することにより、三角柱の任意の一辺からなる面を底辺とするときに、その三角柱の頂点の角度を変えることができることを特徴とする可変三角枕を用いて、この可変三角枕を下肢の裏面に当て、下肢を屈曲させ、腸腰筋の緊張を緩めることにより、腰仙部の前後方向湾曲状態を真直位迄の任意の状態に矯正することを可能とするものである。

あるいは、上記 3 種のマット B、C、D、および上記可変三角枕を組合わせて使用することにより、個人差・体型差に応じて、腰仙部の前後方向湾曲状態を真直位迄の任意の状態に矯正することを可能とするものである。

【0005】

前記発明により、整体治療の前後において使用する整体治療用補助具に関して、脊柱の腰仙部 Y における前後方向湾曲状態を形成するために働く筋群の緊張を解くための機能を備え、腰仙部 Y の前後方向湾曲状態を真直位に近く矯正ができるようにした整体治療用補助具を提供することができた。

そして、短寸楔形マット B、中寸楔形マット C および長寸楔形マット D からなる 3 種の楔形マット、ならびに可変三角枕の単独使用および併用、さらに膝枕 E、角枕 F と組み合わせて使用することにより、体格差、体型差等の個人差に対応することができるという効果があった。

しかし、体格差、体型差等の個人差に対応するために、使用する整体治療用補助具の種類が多いという欠点があった。

【0006】**【発明が解決しようとする課題】**

本発明は、前記した欠点を改善し、単純な整体治療用補助具でもって、体格差、体型差等の個人差に対応することができるようにすることである。

【0007】**【課題を解決するための手段】**

本発明は、脊柱の腰仙部 Y における前後方向湾曲状態を矯正するために、整体治療の前後において使用するものであって、整体治療用補助具として、主に、可変三角枕を使用するものである。

【0008】**【発明の実施の形態】**

以下、本発明を図面に示す実施例に基づいて説明する。

本発明に係る整体治療用補助具は、整体治療の前後において使用するものであって、直角三角柱部材を 2 つ組合わせ、その直角三角柱の直角稜を回転自在、かつ、着脱自在に接合し、短辺同士からなる面、または長辺同士からなる面を固定できるうえに、分離して、直角三角柱部材を単独に独立して、あるいは 2 つ組合わせて使用できるようにした可変三角枕である。この可変三角枕を図 1 に A として示す（以下、可変三角枕 A という。）。

また、断面形状が楔形で、横幅が体幅程度であり、楔形の先端を脊柱の腰仙部に当てた時に、臀部を覆う長さの短寸楔形マット、膝までの長さの中寸楔形マット、および頭頂部を覆うまでの長さの長寸楔形マットの3種の楔形マットからなり、中寸楔形マットには、上面に大腿部を受ける浅い長形の凹部を設け、長寸楔形マットには、上面に後頭部を受ける浅い凹部を設けた3種の楔形マットと、可変三角枕Aとの組合わせとからなることを特徴とする整体治療用補助具である。この際、3種の楔形マットを2種以上積み重ねて使用することができる。さらに、可変三角枕Aに、或いは可変三角枕Aおよび3種の楔形マットに、公知の四角柱状の角枕を組合わせて使用することができる。

【0 0 0 9】

【実施例 1】

本発明の可変三角枕Aは、図1のAに示すように、断面形状が長辺37cmと短辺20cmとを有する直角三角形からなる直角三角柱部材1a、1bを2つ用意する。また、幅5.0cmの面ファスナー2を用意する。そして、直角三角柱部材1a、1bの直角稜から長辺側にかけて幅2.5cmの面ファスナー2a、2bを取り付け、さらに、直角稜と短辺とからなる面の直角稜に対抗する端面に、各々幅2.5cmの面ファスナー3、4を取り付ける。

この様にして用意した前記直角三角柱部材1a、1bを2つ、短辺同士からなる面をつきあわせ、直角稜から長辺側に張り付けた面ファスナー2a、2bに面ファスナー2を張り合わせて、直角三角柱部材1a、1bを2つ組合わせ、その直角三角柱の直角稜を回転自在、かつ、着脱自在に接合する。

また、直角稜と短辺とからなる面の直角稜に対抗する端面に取り付けた面ファスナー3、4により、短辺同士からなる面を、面ファスナー2と面ファスナー3、4とで強固に固定できるようにする。

この可変三角枕Aを構成する部材は、表面は皮、擬革あるいは布等の公知の材料であり、内部はスポンジ、発砲体等の公知の材料からなるものである。

この実施例1では、可変三角枕Aの断面形状は、長辺37cm、短辺20cmとしたが、この可変三角枕Aの断面形状は、長辺34cm、短辺18cm、あるいは長辺39cm、短辺21cmでも良く、必要に応じて、適宜変更できるもので

ある。

【0 0 1 0】

以上のような構成にしたために、本発明の可変三角枕Aは、直角三角柱部材 1 a、1 b の直角稜を回転自在に面ファスナーで結合して使用する場合を、図 2 に示す。この際、可変三角枕Aの三角柱の任意の一辺からなる面を底辺とするととき、図 2 の (1) ~ (5) に示すように、その三角柱の頂点の角度を変えることができることを特徴とする整体治療用補助具である。

可変三角枕Aの頂点の角度は、(1) ~ (2) ~ (3) ~ (4) ~ (5) の順で大きく変化する。

この使用例は、特願 2 0 0 1 - 1 5 1 3 7 3 号において、図 2 として示した例と同じである。

【0 0 1 1】

そして、可変三角枕Aの直角三角柱部材 1 a、1 b の直角稜から、面ファスナー 2 を剥離し、直角三角柱部材 1 a、1 b を分離して、単独に独立して使用する場合を、図 3 に示す。

この際、直角三角柱部材 1 a、1 b の頂点の角度は、(6) ~ (7) ~ (8) ~ (9) の順で大きく変化する。

【0 0 1 2】

また、可変三角枕Aの直角三角柱部材 1 a、1 b を分離して、その内の 1 個を直角稜と長辺からなる面を下にして、もう 1 個を組み合わせて、各斜辺同士からなる面が重ね合わさらない状態で使用する場合を、図 4 に示す。

この際、直角三角柱部材 1 a、1 b からなる頂点の角度は、(10) ~ (11) ~ (12) ~ (13) の順で大きく変化する。

同じように、可変三角枕Aの直角三角柱部材 1 a、1 b を分離して、その内の 1 個の直角稜を上にして、もう 1 個を組み合わせて、各長辺同士からなる面が重ね合わさらない状態で使用する場合を、図 5 に示す。

この際、直角三角柱部材 1 a、1 b からなる頂点の角度は、(14) ~ (15) ~ (16) ~ (17) の順で大きく変化する。

【0 0 1 3】

さらに、可変三角枕Aの直角三角柱部材1a、1bを分離して、直角稜と長辺とからなる面を下にして、もう1個の直角稜と長辺とからなる面を上にして、直角稜が左右対象になるように、斜面からなる面同士を重ね合わせて、断面形状が長方形になるようにして使用する場合を、図6（18）に示す。

同じように、直角三角柱部材1a、1bを分離して、斜面同士からなる面を下にして、直角稜が上になるようにし、もう1個の直角稜が下に来るようにして、直角稜が左右対象になるように、長辺同士からなる面を重ね合わせて、断面形状が平行四辺形になるようにして使用する場合を、図6（19）に示す。

この際、高さは、（18）は（19）よりも高くなる。

【0014】

【実施例2】

本発明の可変三角枕Aは、実施例1に詳述したように、

（1）直角三角柱部材1a、1bを2つ組合わせ、その直角三角柱の直角稜を回転自在に面ファスナー2で接合し、かつ、直角稜と短辺とからなる面の直角稜に対抗する端面に設けた面ファスナー3、4により、短辺同士からなる面を固定して使用する、

（2）直角三角柱部材1a、1bを2つ組合わせ、その直角三角柱の直角稜を回転自在に面ファスナー2で接合し、かつ、直角稜と長辺とからなる面を重ね合わせて使用する、

（3）直角三角柱部材1a、1bの直角稜から、面ファスナー2を剥がし、各直角三角柱部材1a、1bを単独に独立して使用する、

（4）直角三角柱部材1a、1bの直角稜から、面ファスナー2を剥がし、各直角三角柱部材1a、1bを2つ組み合わせて、各斜辺同士または各長辺同士からなる面が重ね合わさらない状態で使用する、

（5）直角三角柱部材1a、1bの直角稜から、面ファスナーを剥がし、各直角三角柱部材1a、1bの各斜辺同士または各長辺同士からなる面を重ね合わせて、断面形状が四辺形または平行四辺形の形状で使用する、

というように使用形態の変化が多いので、すべての使用状態において、安定した使用を可能とするために、三角柱部材1a、1bの三角形の面を除いた全ての

面に、滑り止めを設けた例を示す。

滑り止めは、長さ約 5 c m、幅約 1. 5 c m、厚さ約 0 0 m m の形状であり、天然ゴム、合成ゴム、シリコンゴム等の弾性部材からなるものである。

なお、滑り止めの形状、素材は、この例に限定されるものではなく、同様の目的・効果を奏するものなら何でも良いことは明かであろう。

取り付け場所は、各面の四隅の外端から内側へ、面ファスナーのある面では面ファスナーを避けて、全て直角稜と平行になるように取り付ける。

取り付け方法は、接着剤、縫いつけ等の公知の方法により取り付ける。

直角稜と短辺とからなる面に取り付けた例を、図 7 の (1) に示す。

直角稜と長辺とからなる面に取り付けた例を、図 7 の (2) に示す。

斜辺からなる面に取り付けた例を、図 7 の (3) に示す。

【 0 0 1 5 】

【実施例 3】

本発明の可変三角枕 A は、実施例 1、および実施例 2 に記載したように、使用形態の変化が多いので、利用者の便宜を図るために、目的・注意書や、代表的な使用例を可変三角枕 A の表面に印刷等により、表示しておく例を示す。

先ず、使用目的として、

「目 的

これは、あなたにとって最もリラックスした姿勢をつくるためのマクラです。」と記載した文章を、図 2 の (2) における 1 b 面に表示する。

次いで、注意書きとして、

「注 意

1. あなたにとって最も楽な使用状態を選択し、使用してください。
2. 「最も楽な使用状態」は、いつも同じとは限りません。
3. 寝心地が悪いと感じた時は、より楽な姿勢を探してください。
4. ガマンしてはいけません。
5. 詳しくは、添付の取扱説明書をよく読んで下さい。」

と記載した文章を、図 2 の (2) における 1 a 面に表示する。

なお、図 2 の (2) における 1 b 面、1 a 面は、上下を逆にして、1 a 面、1 b

面にしても同じことであることは明かであろう。また、記載内容もこれに限定されるものでないことも明かであろう。

さらに、代表的な使用例について、

図 2 に (1) ~ (5) として記載した使用例をまとめて、図 2 の (3) における 1 b 面に表示した例を図 8 の a に示す。

図 3 に (6) ~ (9) として記載した使用例と、図 6 に (18)、(19) として記載した使用例とをまとめて、図 2 の (4) における 1 a 面に表示した例を図 8 の b に示す。

図 4 に (10) ~ (13) として記載した使用例をまとめて、図 2 の (5) における 1 a 面に表示した例を図 9 の c に示す。

図 5 に (14) ~ (17) として記載した使用例をまとめて、図 2 の (5) における 1 b 面に表示した例を図 9 の d に示す。

なお、図 2 の (3) における 1 b 面、(4) における 1 a 面、(5) における 1 a 面、および (5) における 1 b 面に表示した例を示したが、表示する使用例、および表示する面は、必要に応じて適宜選択できるものであり、この例に限られるものでないことは明かであろう。

この様に、可変三角枕 A 本体に注意書きや使用例が表示されているので、利用者は取扱説明書を一々取り出さなくても、まごつかずに、色々と試してみることができるようになる。

【 0 0 1 6 】

【実施例 4】

本発明において、可変三角枕 A と併用して使用する 3 種の楔形マットは、特願 2 0 0 1 - 1 5 1 3 7 3 号に記載したものと同一である。

即ち、短寸楔形マット B は、図 7 の B に示すように、断面形状が直角三角形であり、その直角辺の一边の長さが 1 0 c m、他の一边の長さが 1 5 c m であり、横幅が 4 5 c m の三角柱状をしている。

中寸楔形マット C は、図 7 の C に示すように、断面形状が直角三角形であり、その直角辺の一边の長さが 1 0 c m、他の一边の長さが 5 0 c m であり、横幅が 4 5 c m の三角柱状をしており、長辺からなる面を上にして大腿部を受ける浅い長

径の凹部 5 を直角辺同士で作られる面に設けている。

長寸楔形マット D は、図 7 の D に示すように、断面形状が直角三角形であり、その直角辺の一辺の長さが 1 0 c m、他の一辺の長さが 5 5 c m であり、横幅が 4 5 c m の三角柱状をしており、長辺からなる面を上にして頭部を受ける浅い凹部 6 を上面に設けている。

これら 3 種の楔形マットを構成する部材は、表面は皮、擬革あるいは布等の公知の材料であり、内部はスポンジ、発砲体等の公知の材料からなる。

なお、実施例 3 においては、楔形マットの長さを各々具体的に数値で規定しているが、本発明において併用して使用する 3 種の楔形マットは、この長さ限定されるものではなく、個人差・体型差の応じて、適宜変更が可能であることは当然である。

【 0 0 1 7 】

【使用例 1】

本発明の可変三角枕 A の使用例、および、可変三角枕 A と、短寸楔形マット B、中寸楔形マット C および長寸楔形マット D からなる 3 種の楔形マットとの使用例、さらに公知の四角柱状の角枕とを組合わせた使用例を、図面を用いて説明する。

図面における使用例において、可変三角枕 A、および 3 種の楔形マットは、すべてその先端を腰仙部 Y の中心に当てた場合について説明する。

さらに、角枕 F 組み合わせた使用例も説明する。

まず、可変三角枕 A を使用する際には、図 2 の左側に頭を位置し、図 2 の (1) ~ (4) においては、可変三角枕 A の左側先端を腰仙部 Y の中心に当ててから、可変三角枕 A の頂点を膝裏に当て、可変三角枕 A の右側先端の右外に足を持ってくるように、足を可変三角枕 A の上に載せる。図 2 の (5) においては、深く足を曲げ、その内側に可変三角枕 A を挟み込むようにする。

ここで、以下の使用例において、脊柱の腰仙部 Y における前後方向湾曲状態を水平状態、すなわち真直位までに、強制的に近付けた矯正の程度を示す変位角度を、本発明においては、仙骨の腰椎に対する矯正角 α する。しかし、本来、矯正角 α は水平線に対する角度で表示されるものであるところ、図面に書き込むと煩雑

になるので、本使用例においては垂線に対してその大きさを図面に示した。

以下の使用例も全て同じである。

図3に示す例において、可変三角枕Aの面ファスナー2を剥がし、直角三角柱部材1a、1bを分離して、単独に独立して使う場合も上記と同様にする。

図4および図5に示す例において、分離した直角三角柱部材1a、1bを2つ組み合わせて使う場合も上記と同様にする。

なお、以下の使用例において、脊柱の腰仙部Yにおける前後方向湾曲状態を水平状態、すなわち真直位までに、強制的に近付けた矯正の程度を示す変位角度を、本発明においては、仙骨の腰椎に対する矯正角 α とする。

この使用例1において、図2の対応では、矯正角 α は、(1) < (2) < (3) < (4) < (5) となる。

図3の対応では、矯正角 α は、(6) < (7) < (8) < (9) となる。

図4の対応では、矯正角 α は、(10) < (11) < (12) < (13) となる。

図5の対応では、矯正角 α は、(14) < (15) < (16) < (17) となる。

この使用例1においては、人体との関係を示す図面は省略した。

【0018】

【使用例2】

図3に示した可変三角枕Aの直角三角柱部材1a、1bの直角稜から、面ファスナー2を剥離し、直角三角柱部材1a、1bを分離して単独で使用する場合と、本発明で併用する短寸楔形マットB、中寸楔形マットC、および長寸楔形マットDの内の1種又は2種とを組み合わせ使用した例を図12に示す。

(1) 仰臥位において、背面に長寸楔形マットDを使用し、脊柱の腰仙部Yより頭部までに傾斜を付け、背面より支え持ち上げ、さらに第3図の(6)に示す直角三角柱部材1a、1bを下肢の裏面に使用することにより、腰仙部Yの前後方向湾曲状態を真直位までに近付けている使用例を図12の(1)に示す。

(2) 仰臥位において、背面に長寸楔形マットDを使用し、脊柱の腰仙部Yより頭部までに傾斜を付け、背面より支え持ち上げ、さらに、中寸楔形マットCの上

に、図 3 の (6) に示す直角三角柱部材 1 a、1 b を重ねて、下肢の裏面に使用することにより、腰仙部 Y より膝窩部までに傾斜を付け、下肢背面より支え持ち上げることにより、腰椎に対する仙骨の前傾の度を軽減させるとともに、股関節を軽度屈曲させ、腰仙部 Y の前後方向湾曲状態を真直位までに近付けている使用例を図 1 2 の (2) に示す。

(3) 仰臥位において、背面に長寸楔形マット D を使用し、脊柱の腰仙部 Y より頭部までに傾斜を付け、背面より支え持ち上げ、また、臀部に短寸楔形マット B を使用し、腰仙部 Y より臀部までに傾斜を付け、仙骨の末端部を臀部背面より支え持ち上げ、さらに、図 3 の (8)、(9) に示す直角三角柱部材 1 a、1 b を下肢の裏面に使用することにより、腰椎に対する仙骨の前傾の度を軽減させ、腰仙部 Y の前後方向湾曲状態を真直位までに近付けている使用例を図 1 2 の (3) および (4) に示す。

以下の使用例において、本来、矯正角 α は、前記したとおり、水平線に対する角度で表示されるものであるところ、図面に書き込むと、線が重なり合い、煩雑になるので、以下の使用例においては、垂線に対してその大きさを図面に示した。この使用例 2 において、矯正角 α は、(1) < (2) < (3) < (4) となる。

【 0 0 1 9 】

【使用例 3】

図 4 の (1 2)、(1 3)、および図 5 の (1 7) に示した可変三角枕 A の直角三角柱部材 1 a、1 b の直角稜から、面ファスナー 2 を剥離し、直角三角柱部材 1 a、1 b を分離して、組み合わせて使用する場合と、本発明で併用する長寸楔形マット D、および第 1 0 図に示す角枕 F を組み合わせて使用した例を図 1 3 に示す。

使い方は、前記使用例 1、および使用例 2 と同じなので、以下は、省略して記載する。

(1) 図 4 の (1 2) と長寸楔形マット D とを用いた使用例を図 1 3 の (1) に示す。

(2) 図 5 の (1 7) と長寸楔形マット D とを用いた使用例を図 1 3 の (2) に示す。

(3) 図 4 の (1 3) と長寸楔形マット D とを用いた使用例を図 1 3 の (3) に示す。

(4) 図 5 の (1 7) と長寸楔形マット D と、さらに角枕 F とを用いた使用例を図 1 3 の (4) に示す。

この使用例 3 において、矯正角 α は、 $(1) < (2) < (3) < (4)$ となる。

【0 0 2 0】

【使用例 4】

図 3 の (7)、(9) および図 5 の (1 4) に示した可変三角枕 A の直角三角柱部材 1 a、1 b の直角稜から、面ファスナー 2 を剥離し、直角三角柱部材 1 a、1 b を分離して、単独で、または組み合わせて使用する場合と、本発明で併用する短寸楔形マット B、中寸楔形マット C および長寸楔形マット D からなる 3 種の楔形マットの内、その 1 種または 2 種と、さらに角枕 F とを組み合わせて使用した例を図 1 4 に示す。

(1) 図 3 の (7) と、中寸楔形マット C および長寸楔形マット D と、さらに角枕 F とを用いた使用例を図 1 4 の (1) に示す。

(2) 図 3 の (9) と、短寸楔形マット B および長寸楔形マット D と、さらに角枕 F とを用いた使用例を図 1 4 の (2) に示す。

(3) 図 5 の (1 4) と、長寸楔形マット D と、さらに角枕 F とを用いた使用例を図 1 4 の (3) に示す。

この使用例 4 において、矯正角 α は、 $(1) < (2) < (3)$ となる。

【0 0 2 1】

【使用例 5】

図 3 の (8)、図 4 の (1 2)、(1 3)、および図 5 の (1 6) に示した可変三角枕 A の直角三角柱部材 1 a、1 b の直角稜から、面ファスナー 2 を剥離し、直角三角柱部材 1 a、1 b を分離して、単独で、または組み合わせて使用する場合と、本発明で併用する中寸楔形マット C および長寸楔形マット D の 1 種または 2 種と、さらに角枕 F とを組み合わせて使用した例を図 1 5 に示す。

(1) 図 3 の (8) と、中寸楔形マット C、および長寸楔形マット D を 2 重に積み重ねとを用いた使用例を図 1 5 の (1) に示す。

(2) 図 4 の (1 3) と、長寸楔形マット D を 2 重に積み重ねとを用いた使用例を図 1 5 の (2) に示す。

(3) 図 5 の (1 6) と、長寸楔形マット D を 2 重に積み重ねと、さらに角枕 F とを組み合わせて使用した例を図 1 5 の (3) に示す。

(4) 図 4 の (1 2) と、中寸楔形マット C、および長寸楔形マット D を 2 重に積み重ねとを用いた使用例を図 1 5 の (4) に示す。

この使用例 5 において、矯正角 α は、(1) < (2) < (3) < (4) となる。

【0 0 2 2】

【使用例 6】

図 6 の (1 8)、(1 9) は、前記してきた仰臥位（仰向け）の使用とは異なり、従来のバスマットの使用状態のように、腹臥位（うつ伏せ）になって使用するものである。このことにより、脊柱の前後方向の湾曲を無くし、真直に近づく体位を可能とする。

(1 8)、(1 9) の使用例を、それぞれ第 1 6 図の (1)、(2) に示す。この使用例を見ればわかるとおり、高さは、(1 8) は (1 9) よりも高いが、底辺は、(1 9) の方が (1 8) よりも長い。この違いは、体格差等により使い分けが可能である。

【0 0 2 3】

以上の各使用例において、矯正角 α は、標準的な状態について示したが、実際には体型差、体格差等の個人差により変化するものである。例えば、ねこ背の人の場合には、長寸楔形マット D を背中側に入れた場合の方が矯正角 α がより大きくなる。また、3 種の楔形マットの使用状況により矯正角 α は、矯正の程度を必ずしも正しくあらわすものではない。

さらに、前記使用例においては、楔形マットの先端を腰仙部 Y の中央に当てた場合について説明したが、腰仙部 Y には幅があり、その幅の範囲において楔形マットの先端を移動することにより、個人差に対応した微調整が可能である。

その他に、可変三角枕 A、3 種の楔形マット、および角枕 F の設置位置を移動することによっても、矯正角 α を微調整することが可能となるものである。

【0 0 2 4】

本発明の可変三角枕A、および、短寸楔形マットB、中寸楔形マットCおよび長寸楔形マットDからなる3種の楔形マットは、整体治療の前後において使用する整体治療用補助具と規定しているが、整体治療を行う時に治療師が使用するものではないから、整体治療と関係なく使用できることは当然である。

【0025】

【発明の効果】

以上説明したように本発明の整体治療用補助具は、脊柱の腰仙部Yにおける前後方向湾曲状態を矯正するために、整体治療の前後において使用するものである。すなわち、整体治療の前において使用する場合には、脊柱の腰仙部Yにおける前後方向湾曲状態を形成している筋群の緊張を解くことができるので整体治療がより容易になる。また、整体治療の後において使用する場合には、矯正状態を維持することができるので、治療効果が一層高まる。さらに、整体治療の前および後において2度使用する場合には、なおさら治療効果がより一層高まる。

【0026】

また、本発明は、整体治療用補助具として、可変三角枕Aの単独使用、および短寸楔形マットB、中寸楔形マットCおよび長寸楔形マットDからなる3種の楔形マットとの併用、さらに角枕Fと組み合わせて使用することにより、組み合わせのバリエーションが非常に多くなるので、体格差、体型差等の個人差に対応することができるという効果がある。

【0027】

さらに、本発明の整体治療用補助具は、その構造が単純であり、かつ、その使い方が容易であるうえに、使い方のバリエーションが豊富であるという効果がある。

そのために、本発明の整体治療用補助具は、整体治療者の指導の元で、その使用になれた患者は、自宅において使用することが可能となり、日常生活に起因する脊柱の歪みを日常生活において解くことができるという効果が得られる。

【0028】

また、本発明の可変三角枕Aは、使用形態の変化が多いが、滑り止めを設けたことにより、すべての使用状態において、安定した使用が可能となるという効果

がある。

【0 0 2 9】

さらに、本発明の可変三角枕Aは、その本体に注意書きや使用例が表示されているので、利用者は取扱説明書を一々取り出さなくても、まごつかずに、色々と試してみることができるようになるという効果がある。

【0 0 3 0】

前記の使用例において、本発明の整体治療用補助具は、整体治療の前後において使用することを示したが、治療師が整体治療を行う時に使用するものではないから、（１）治癒した後に、整体治療なしに、自宅で使用できるものである、また、（２）初めから整体治療をすることなく、自宅で使用することもできるものである。

以下に、初めから整体治療をすることなく、自宅で使用できる応用例として、いくつか挙げる。

【0 0 3 1】

【応用例 1】

本発明の整体治療用補助具は、脊柱の腰仙部Yにおける前後方向湾曲を形成するために働く筋群の緊張状態を緩めることができるので、身体のリラックス状態を容易につくり出すことができるという特徴を有するために、（１）入眠時間を短縮することができる、および（２）熟睡することができる。

そのために、効率的な仮眠や、不眠の解消等、眠りに関して、多岐に亘る効果が期待できるものである。

【0 0 3 2】

【応用例 2】

本発明の整体治療用補助具は、使用形態の変化が多く、体位変換を容易に行うことができるという特徴を有するので、この特徴を生かして、寝たきりによる褥瘡（床ずれ）の予防と軽減、および身体関節拘縮の予防と軽減に、その効果が期待できるものである。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

可変三角枕 A を示す斜視図である。

【図 2】

可変三角枕 A の頂点の角度が (1) ~ (2) ~ (3) ~ (4) ~ (5) の順で大きく変化することを示す全体斜視図である。

【図 3】

可変三角枕 A を分離して単体で使用した例を示す。頂点の角度は、(6) ~ (7) ~ (8) ~ (9) の順で大きくなる。

【図 4】

可変三角枕 A を分離して単体を 2 個組み合わせて使用した例の 1 を示す。頂点の角度は、(1 0) ~ (1 1) ~ (1 2) ~ (1 3) の順で大きくなる。

【図 5】

可変三角枕 A を分離して単体を 2 個組み合わせて使用した例の 2 を示す。頂点の角度は、(1 4) ~ (1 5) ~ (1 6) ~ (1 7) の順で大きくなる。

【図 6】

可変三角枕 A を分離して単体を 2 個組み合わせて使用した例の 3 を示す。高さは、(1 8) は (1 9) よりも高くなる。

【図 7】

可変三角枕 A の各辺に取り付けた滑り止めを示す平面図である。

【図 8】

可変三角枕の表面に記載した使用説明図の例 1 および例 2

【図 9】

可変三角枕の表面に記載した使用説明図の例 3 および例 4

【図 1 0】

短寸楔形マット B、中寸楔形マット C、および長寸楔形マット D を示す全体斜視図である。

【図 1 1】

公知の膝枕 E と、公知の角枕 F とを示す斜視図である。

【図 1 2】

組み合わせ使用例 2

【図 1 3】

組み合わせ使用例 3

【図 1 4】

組み合わせ使用例 4

【図 1 5】

組み合わせ使用例 5

【図 1 6】

組み合わせ使用例 6

【符号の説明】

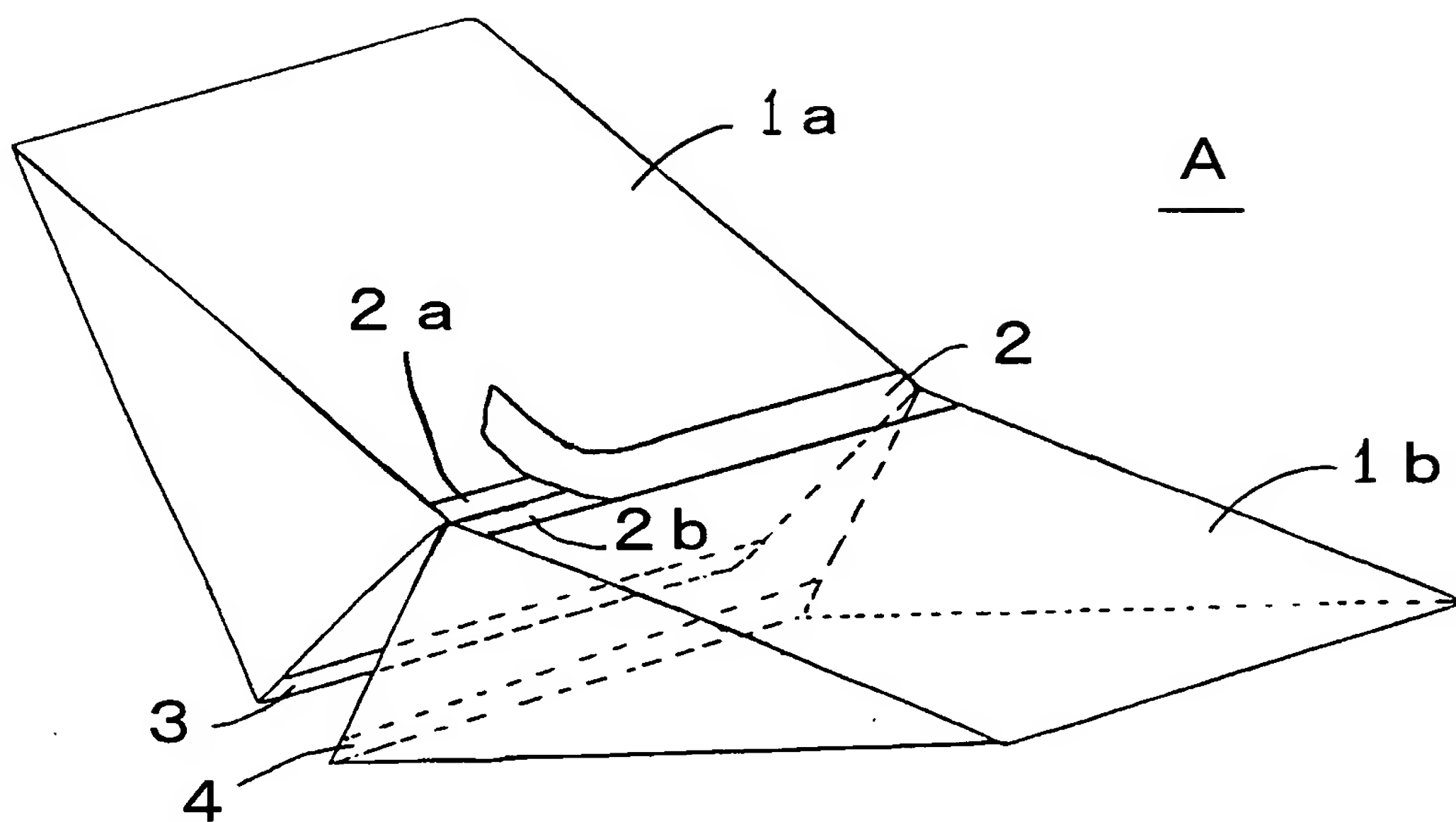
- A 改良可変三角枕
- B 短寸楔形マット
- C 中寸楔形マット
- D 長寸楔形マット
- E 公知の膝枕
- F 公知の角枕
- Y 腰仙部
- 1 a 改良可変三角枕 A の一部
- 1 b 改良可変三角枕 A の他方の一部
- 2 着脱自在な接合部を構成する面ファスナー
- 2 a 改良可変三角枕 A の 1 a の結合部に設けた面ファスナー
- 2 b 改良可変三角枕 A の 1 b の結合部に設けた面ファスナー
- 3 改良可変三角枕 A の 1 a の結合面の端部に設けた面ファスナー
- 4 改良可変三角枕 A の 1 b の結合面の端部に設けた面ファスナー
- 5 滑り止め
- 6 中寸楔形マット B の大腿部を受ける浅い長径の凹部
- 7 長寸楔形マット D の後頭部を受ける浅い凹部



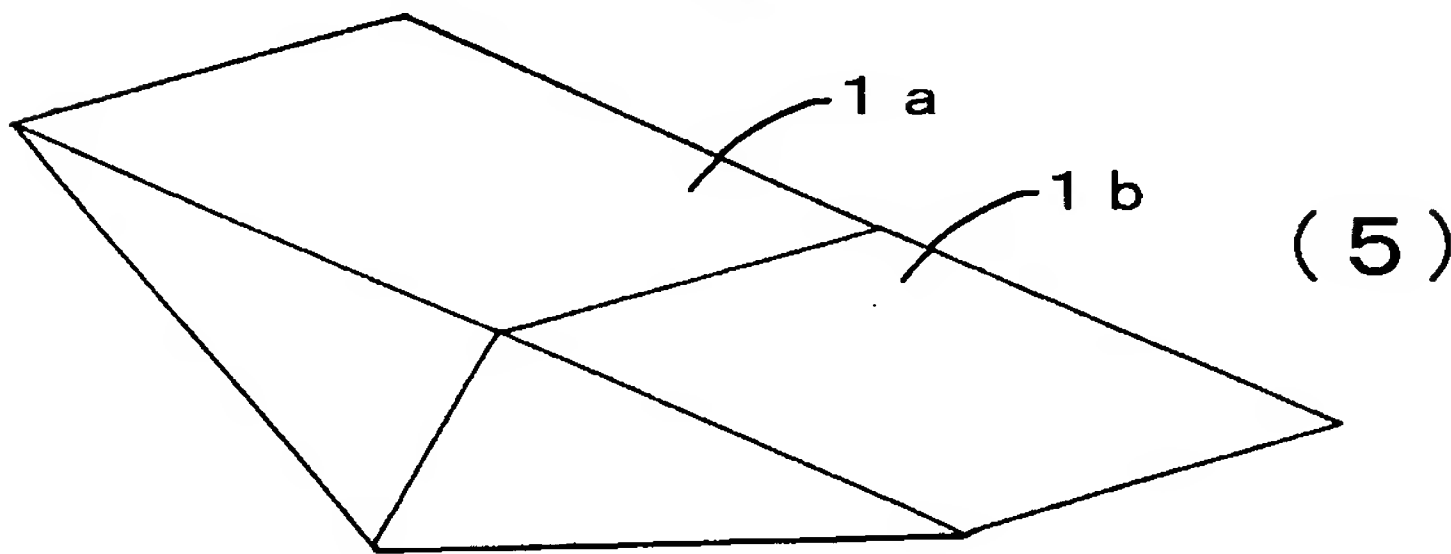
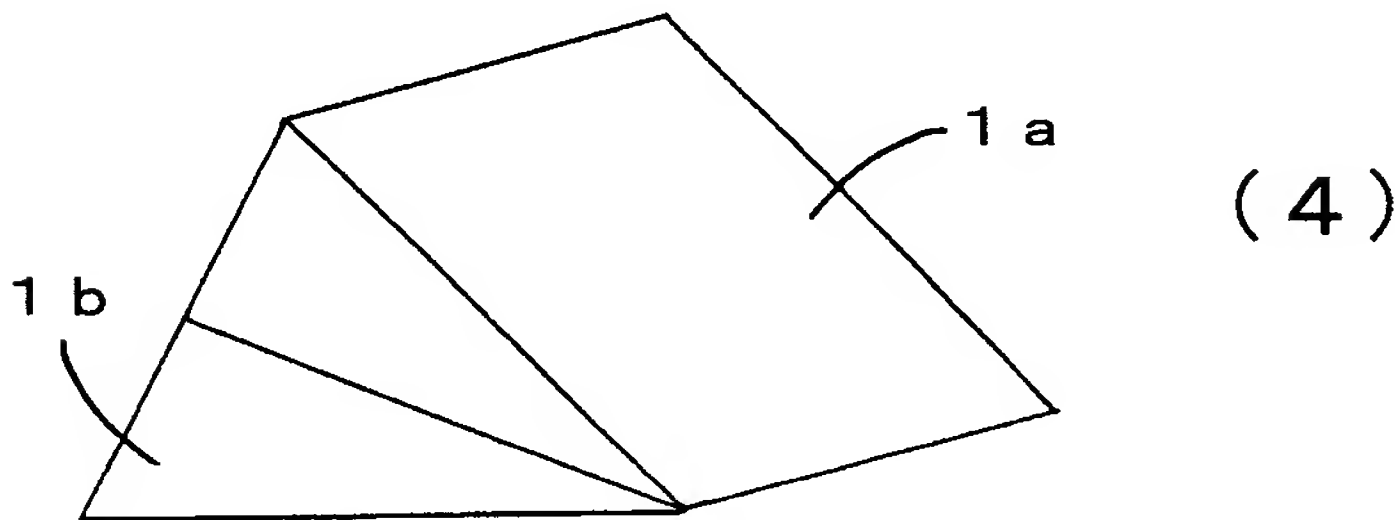
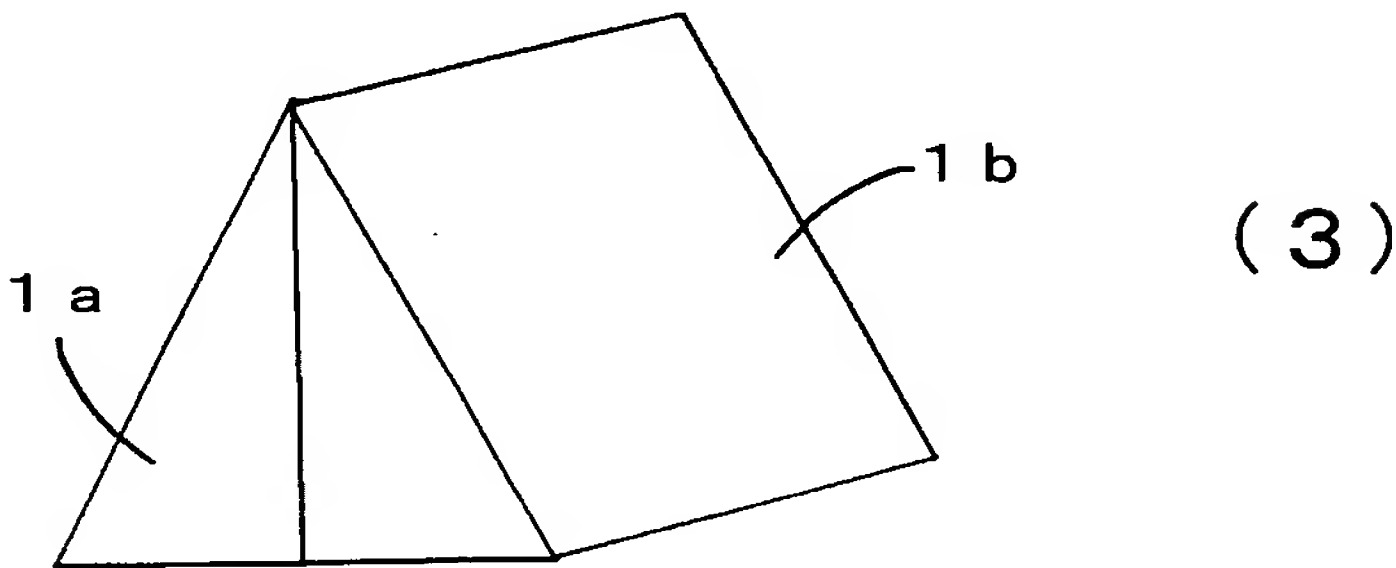
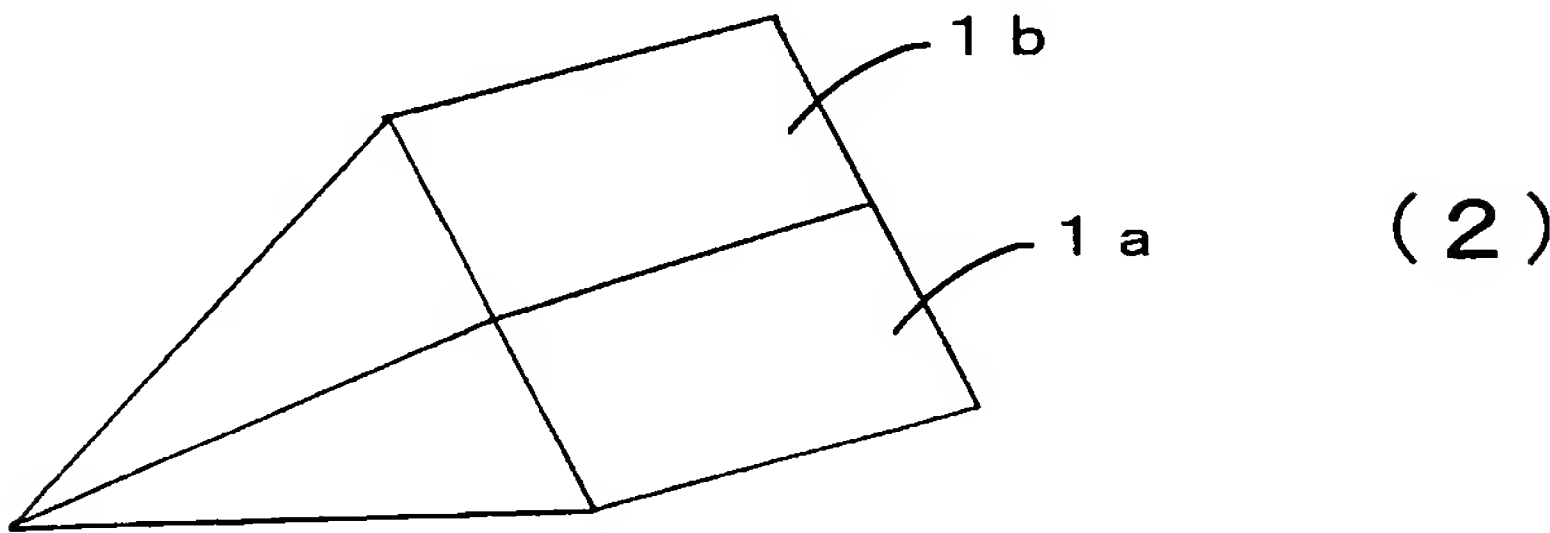
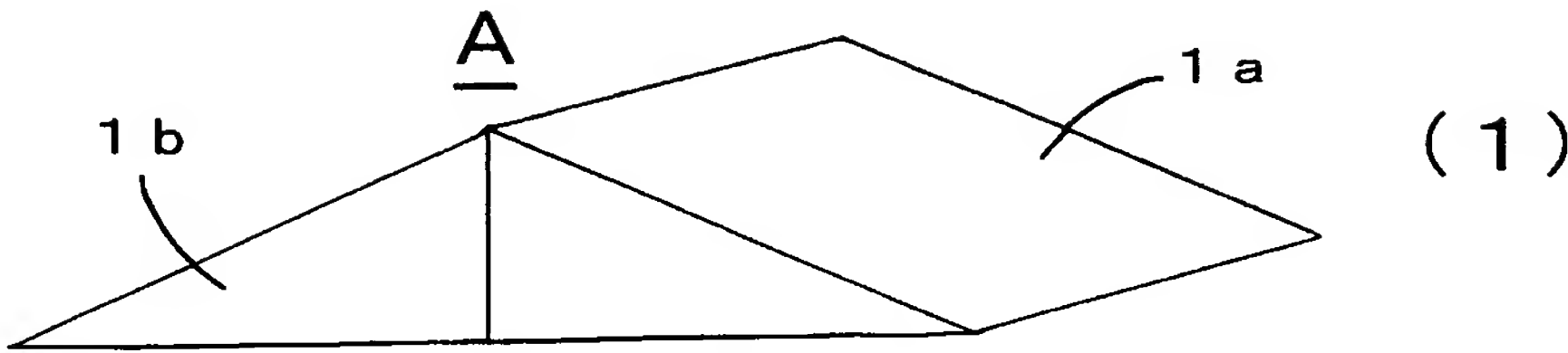
【書類名】

図面

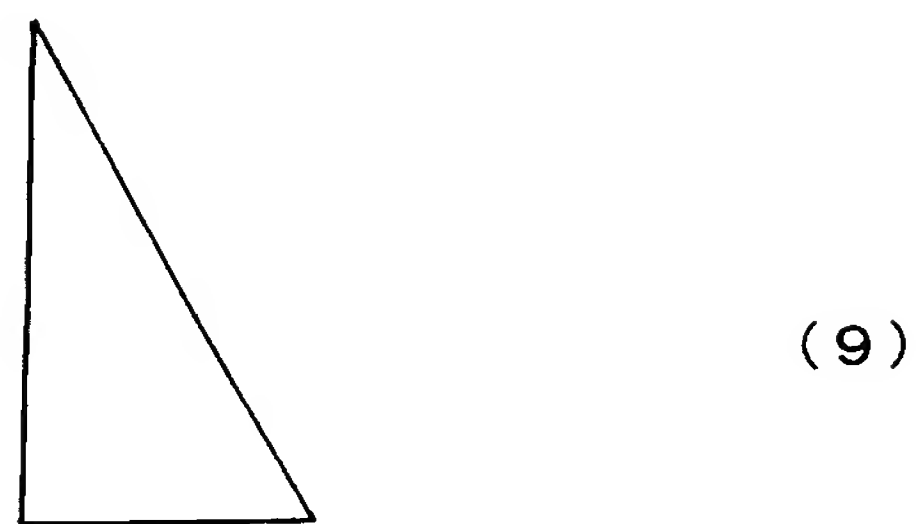
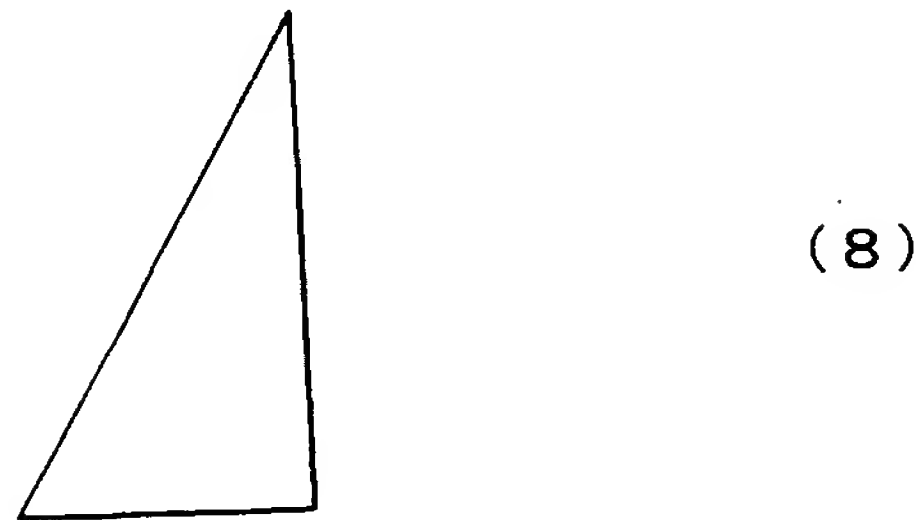
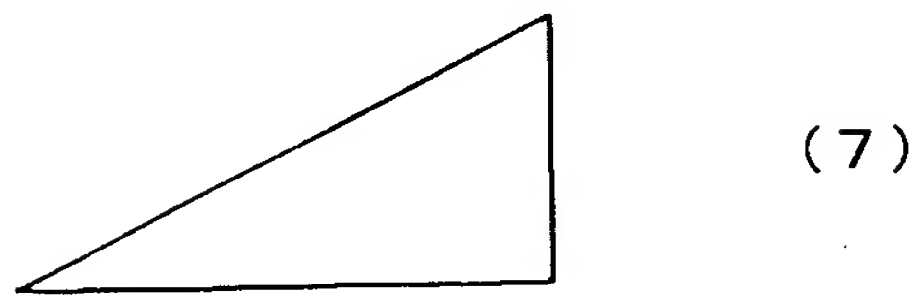
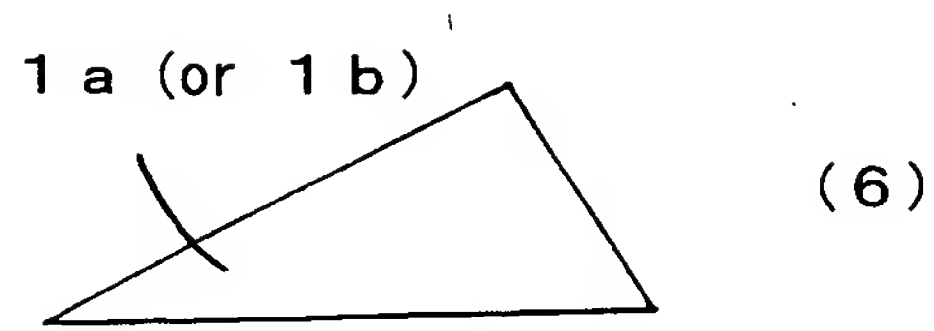
【図 1】



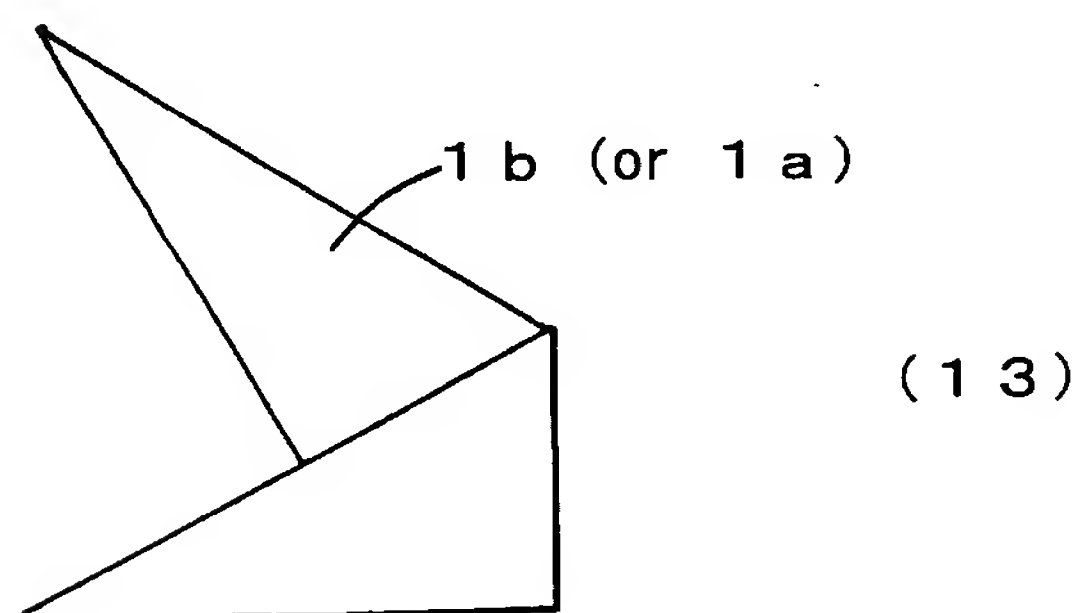
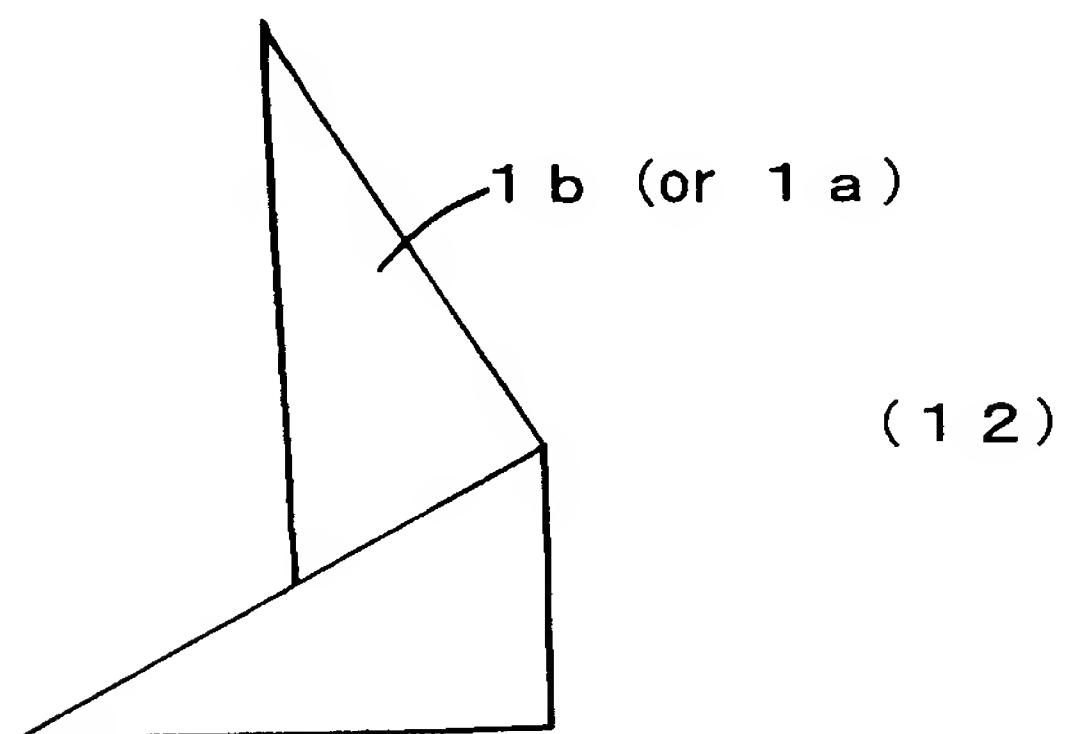
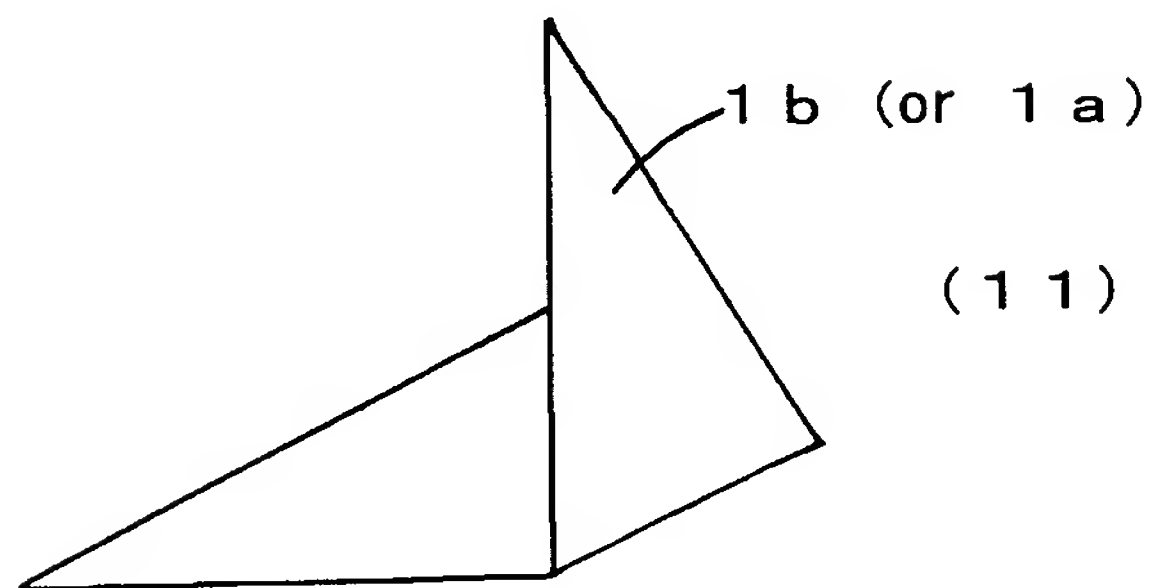
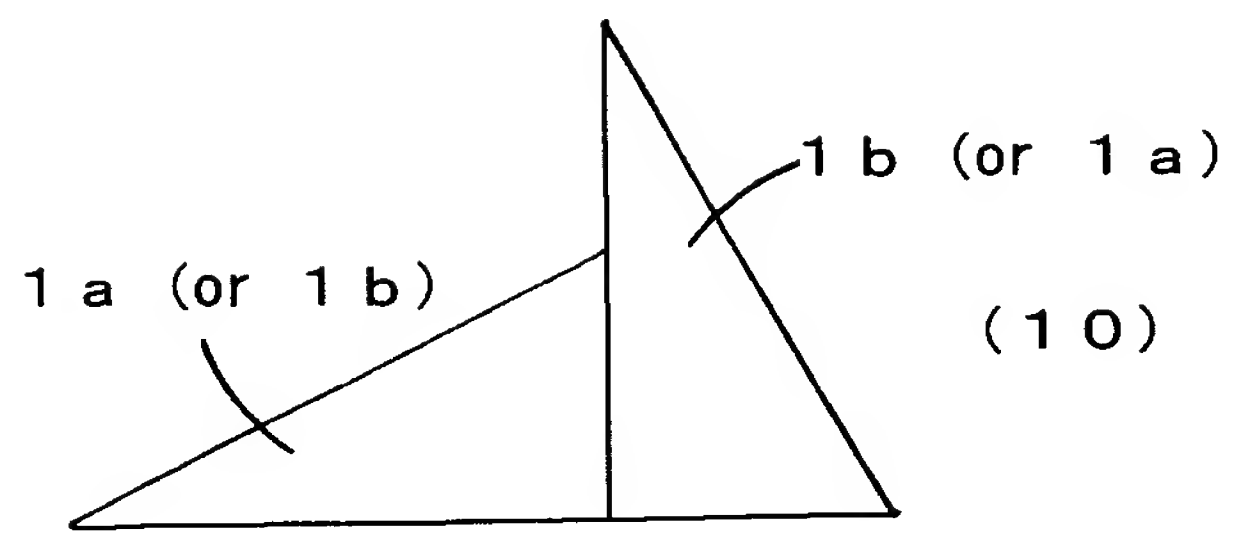
【図 2】



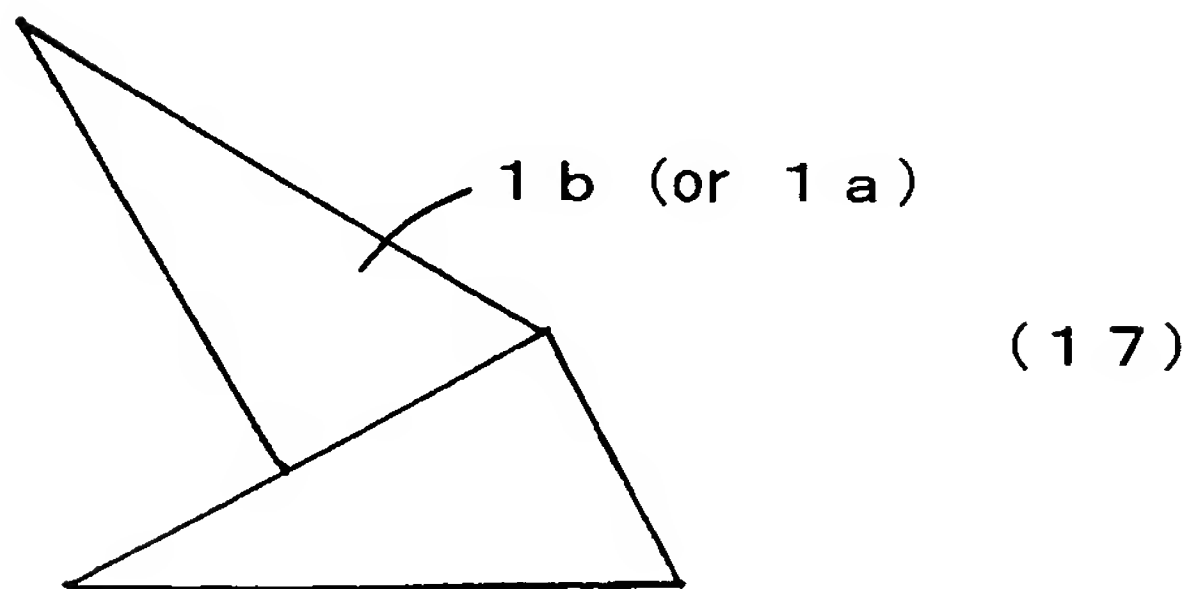
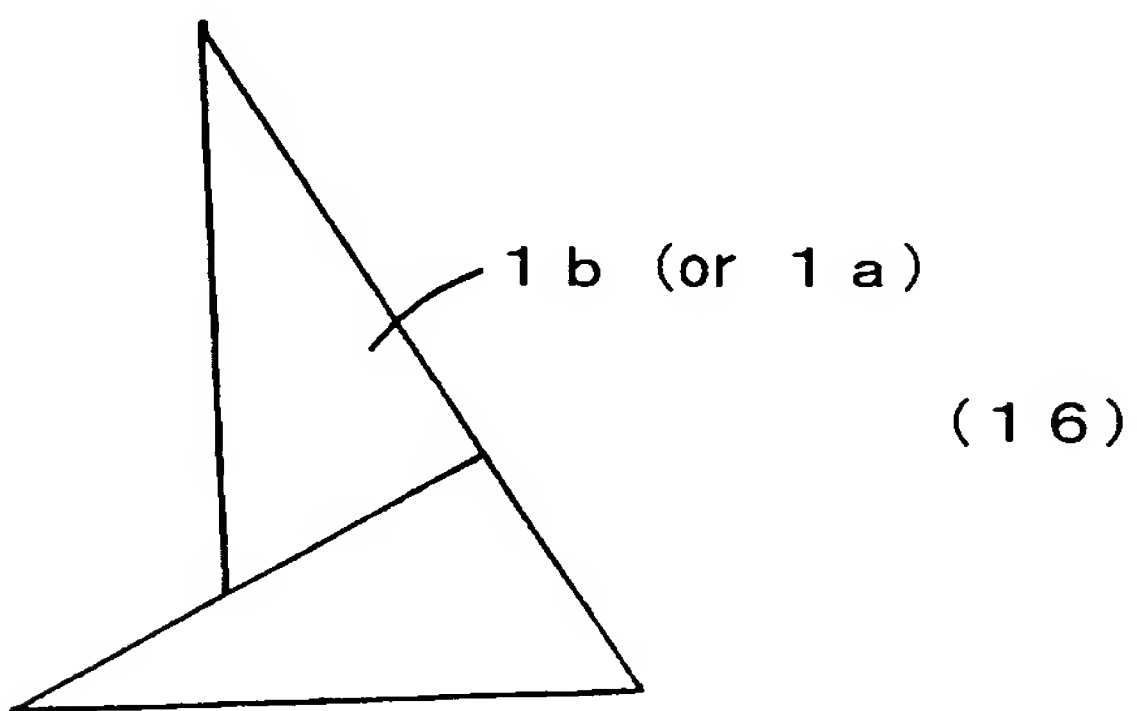
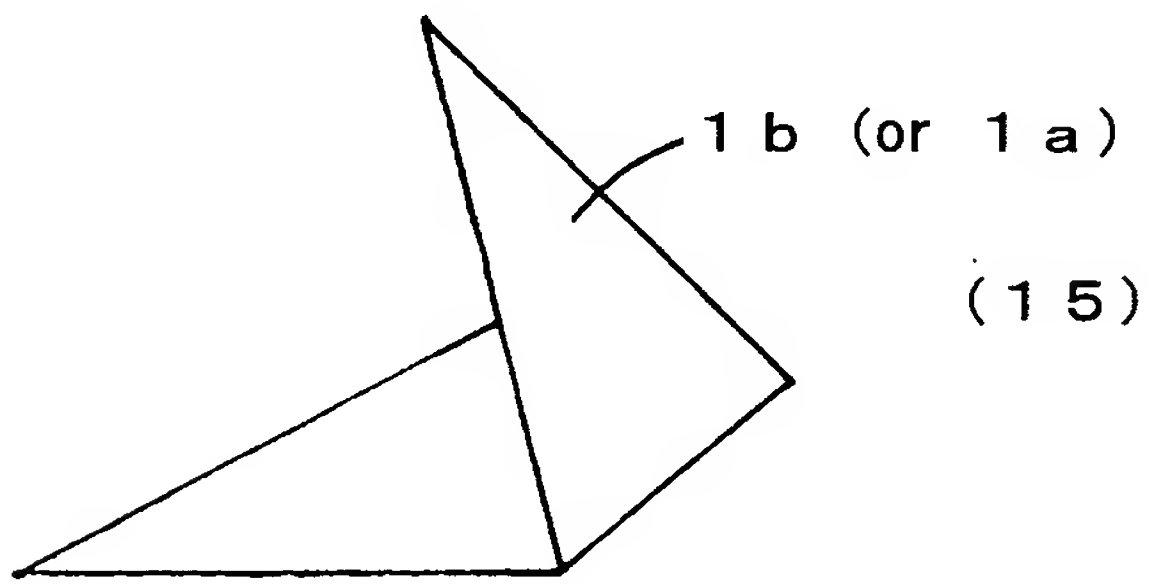
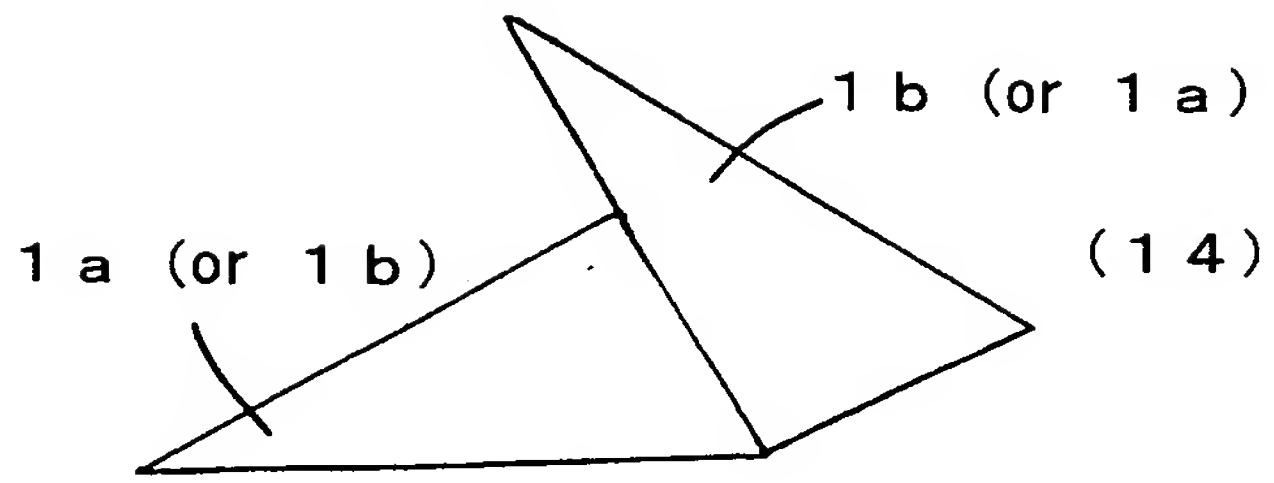
【図 3】



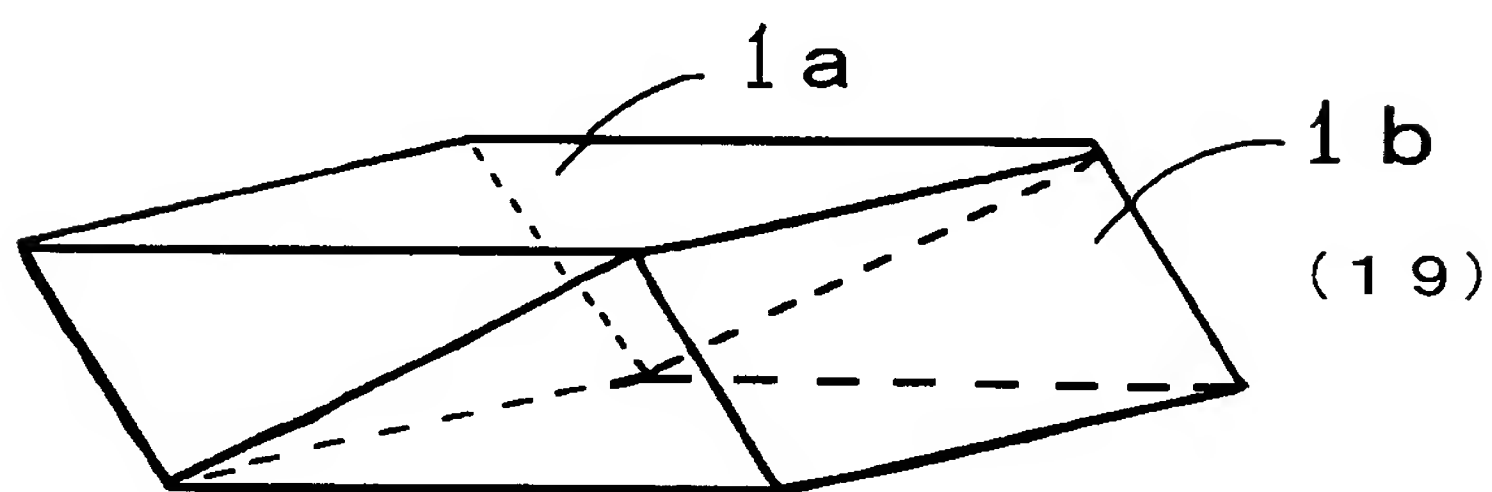
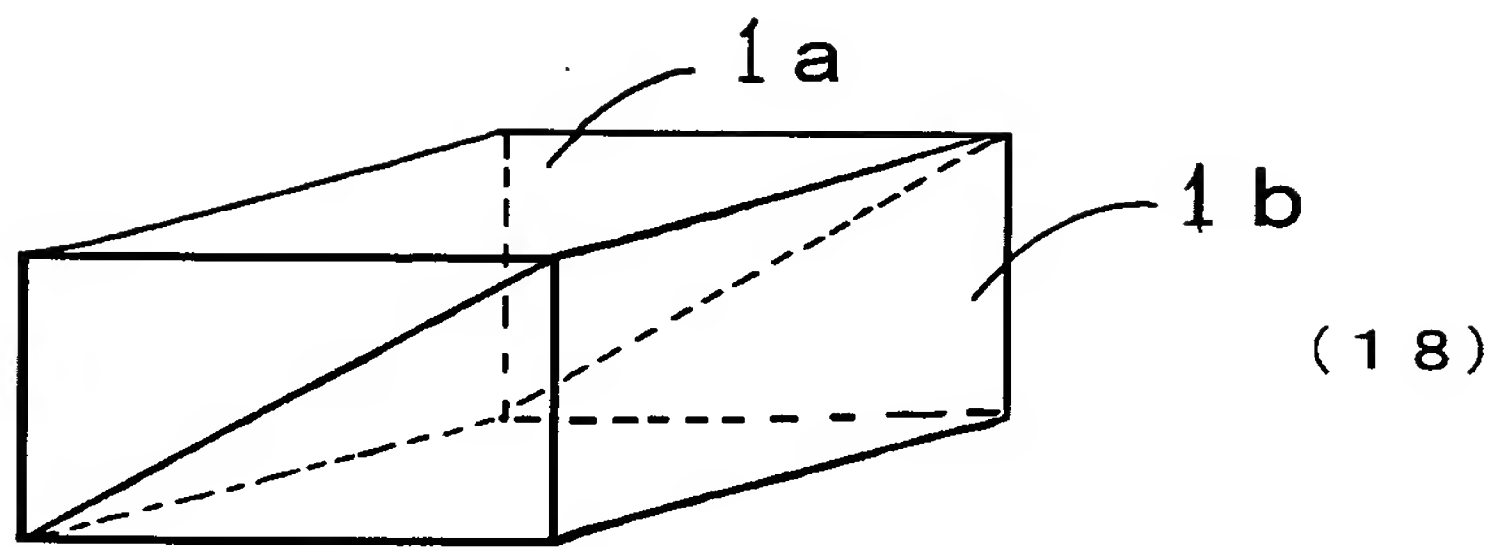
【図 4】



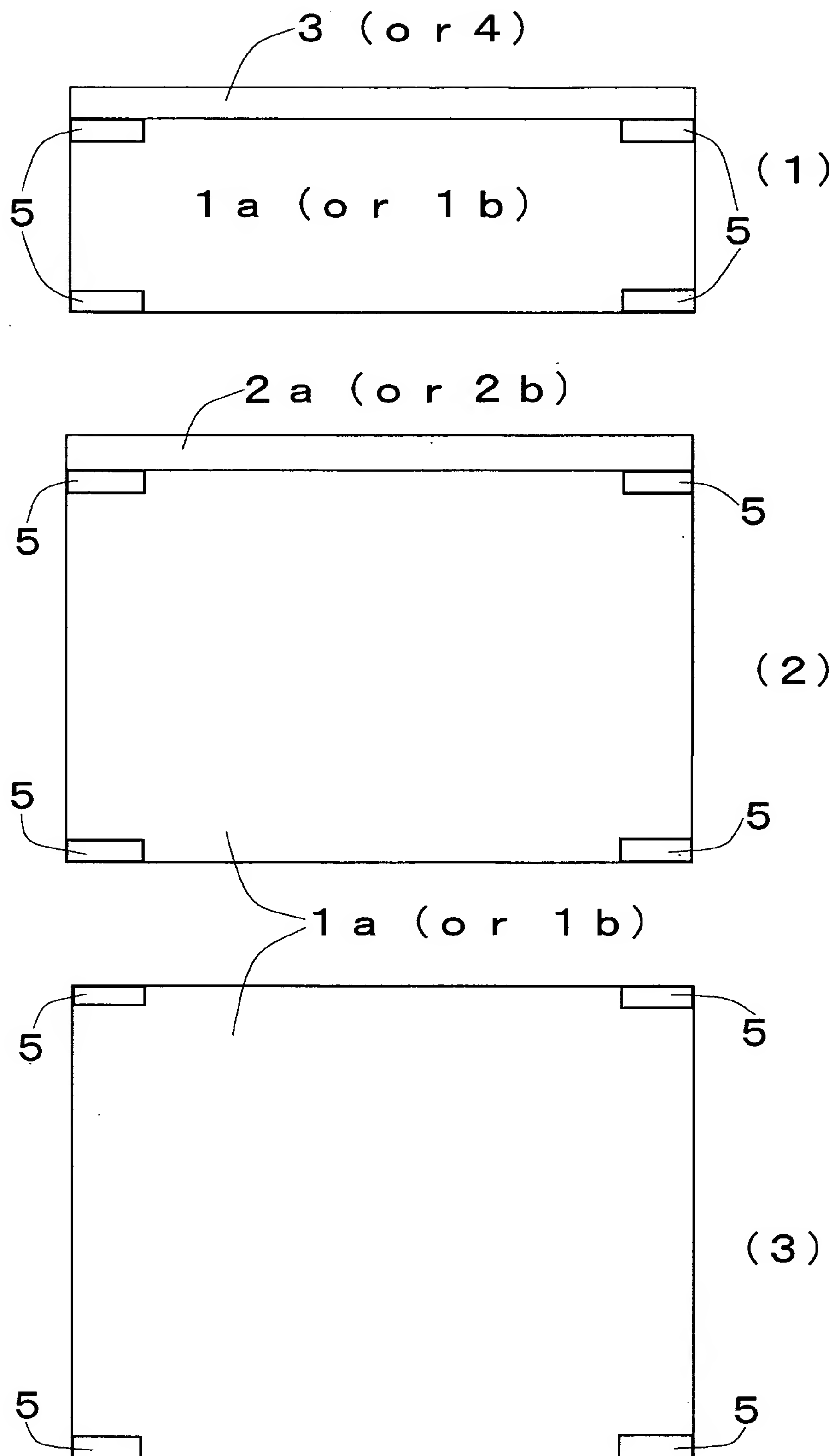
【図 5】



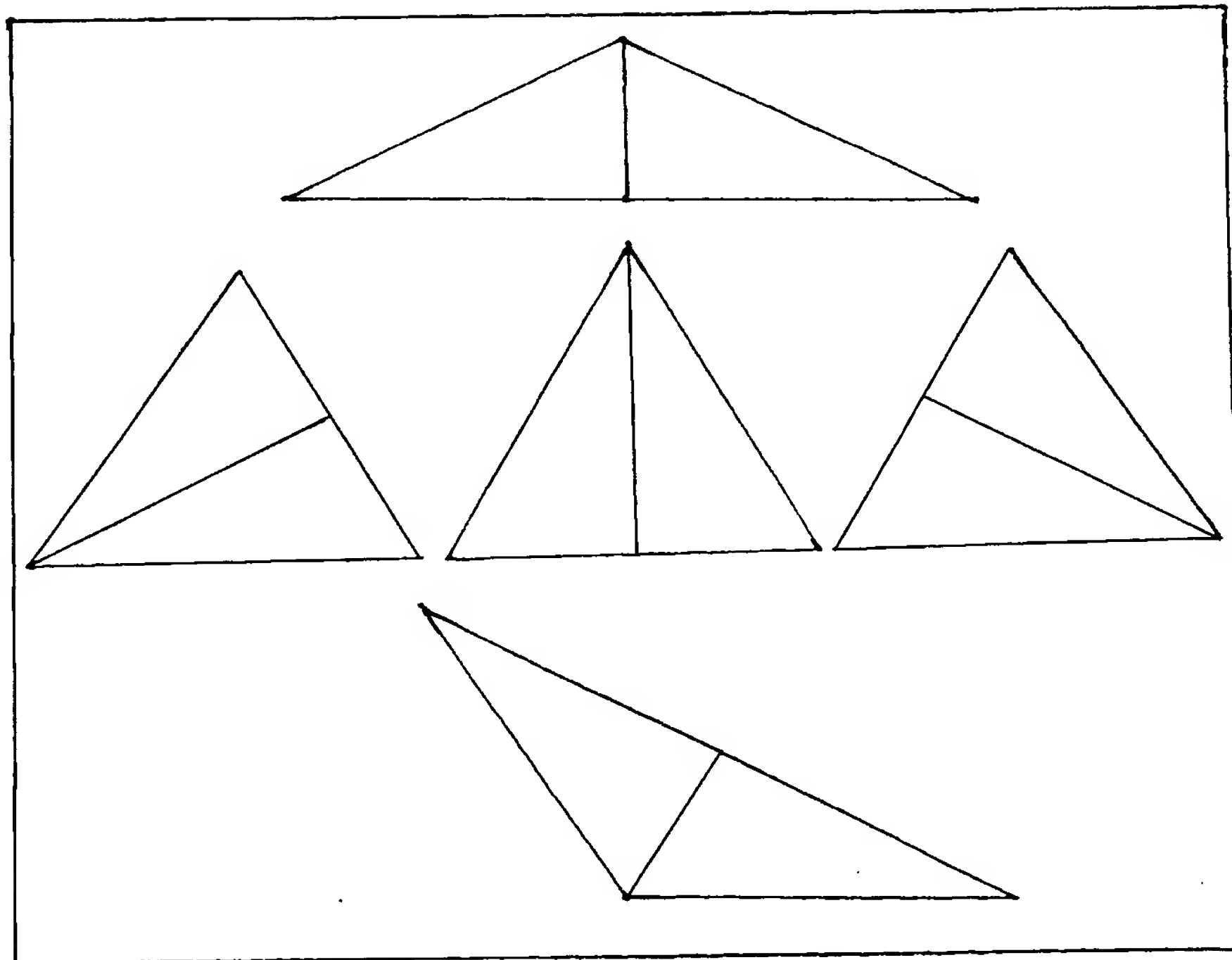
【図 6】



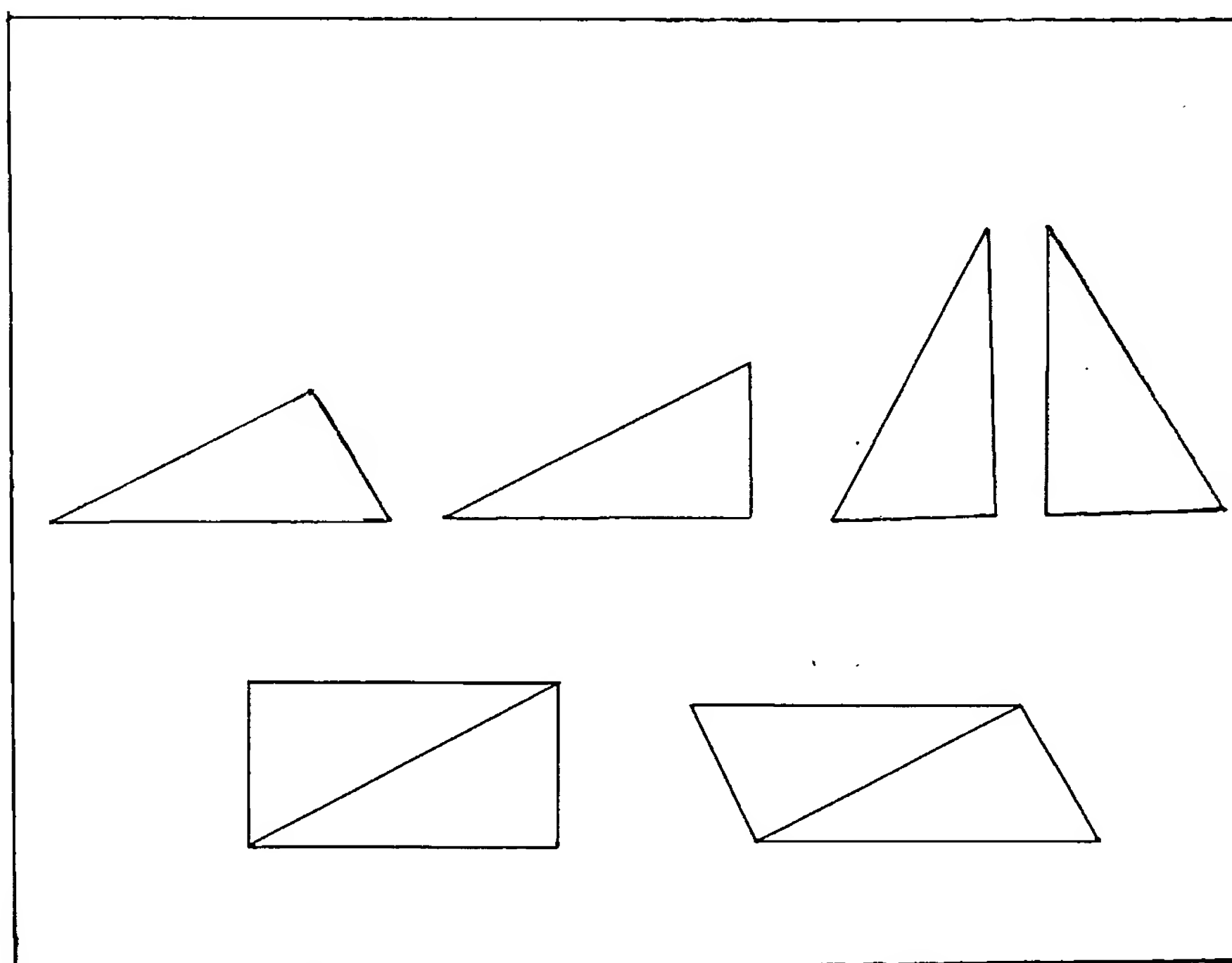
【図 7】



【図 8】

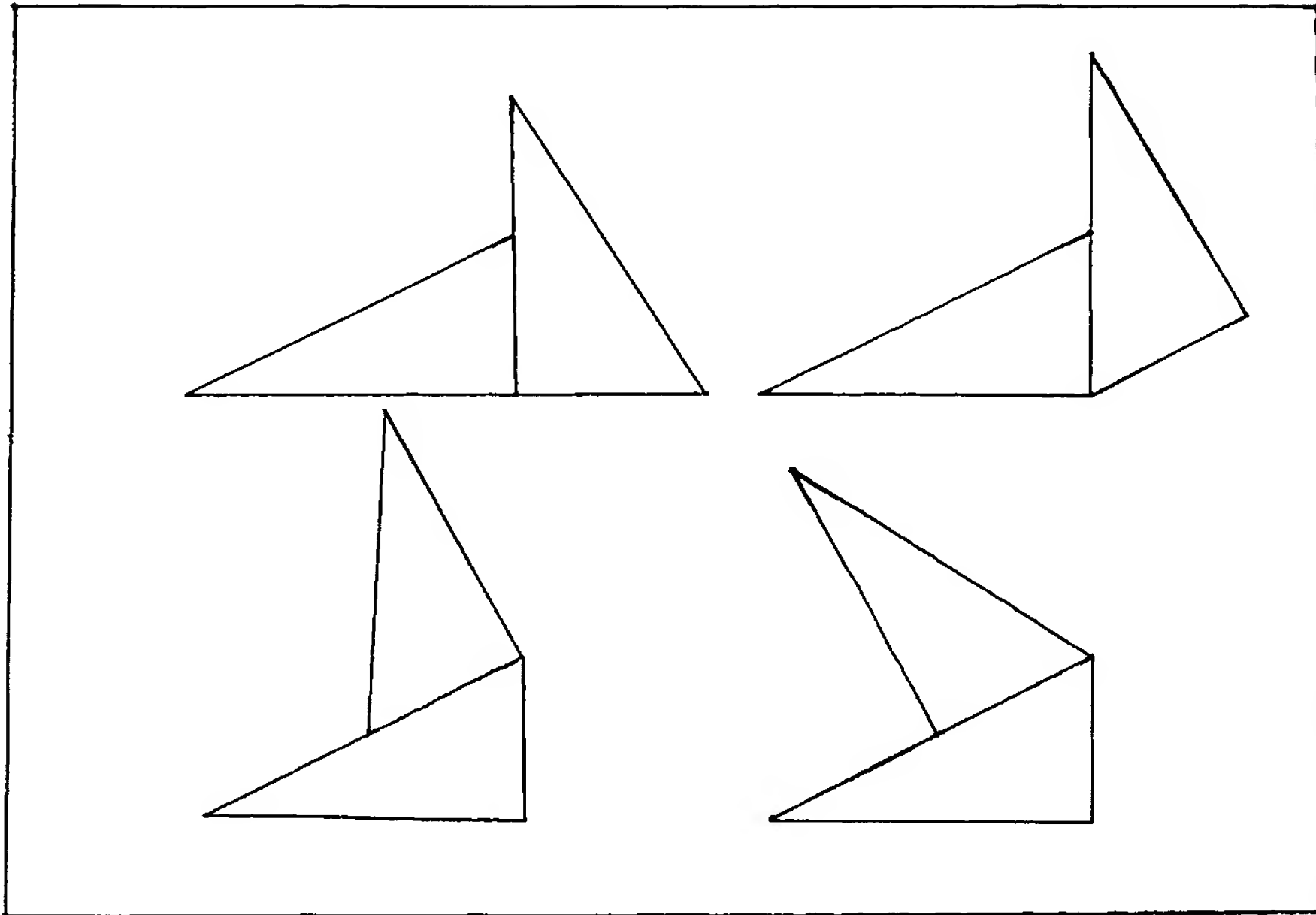


a

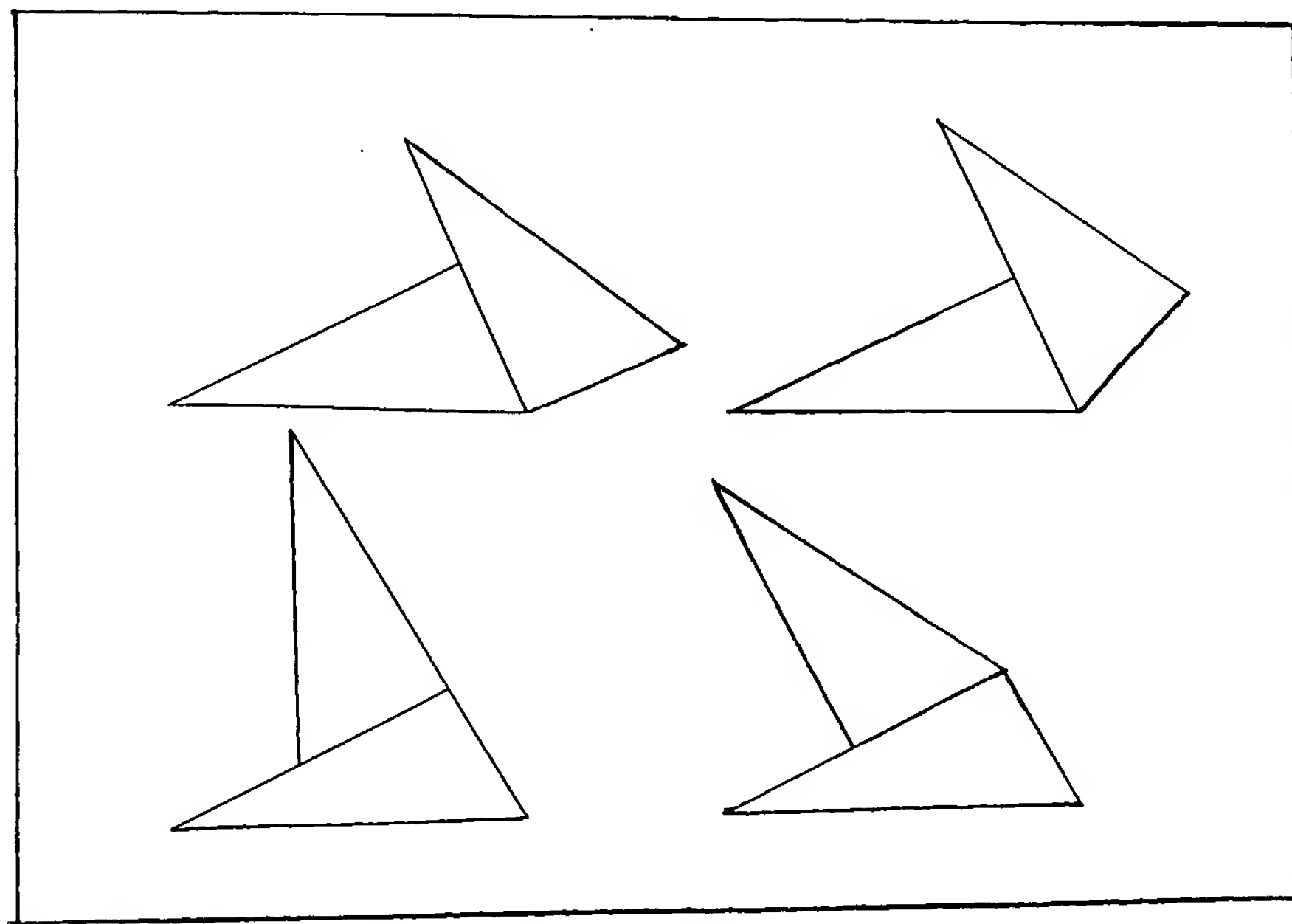


b

【図 9】

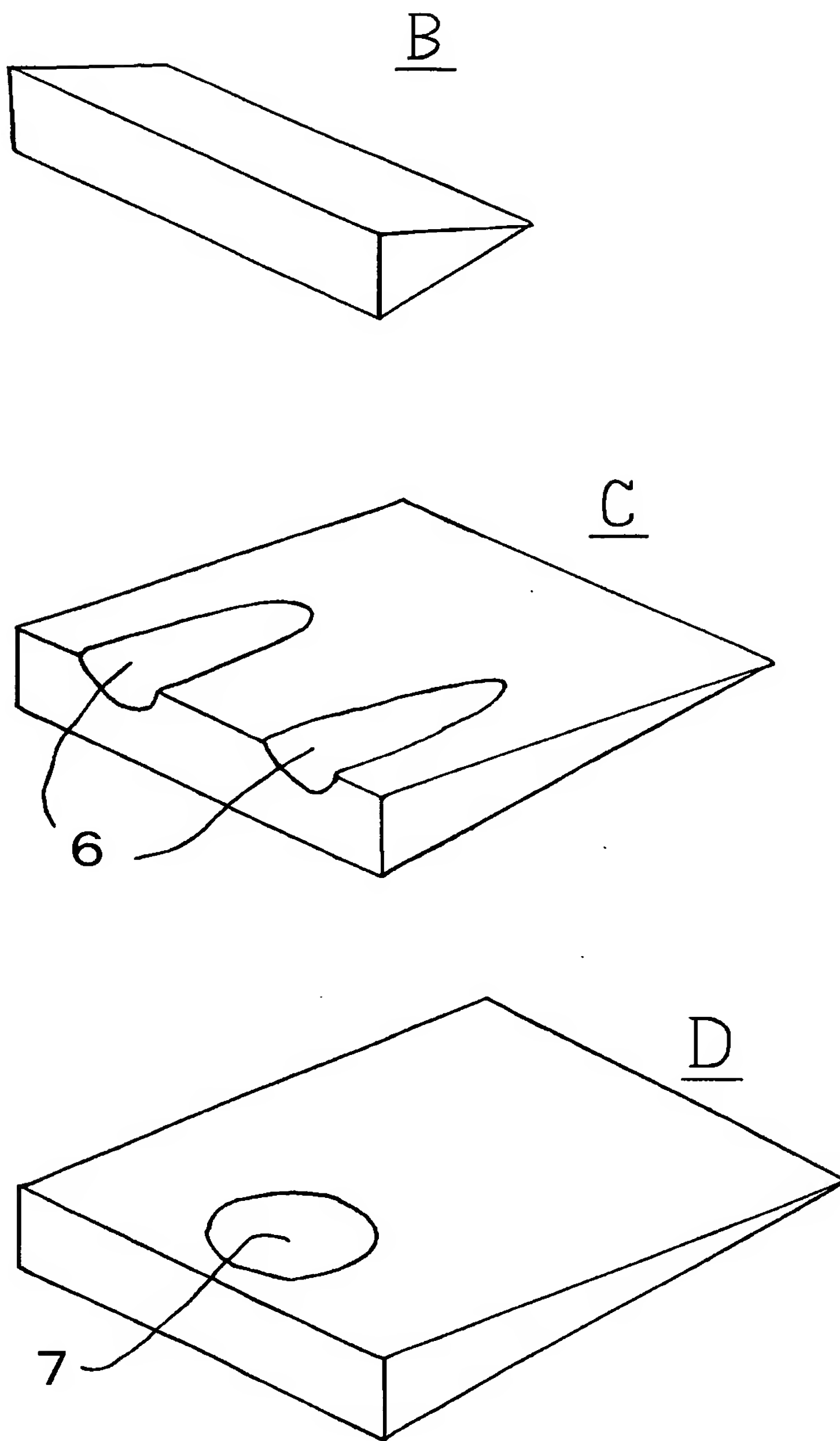


c

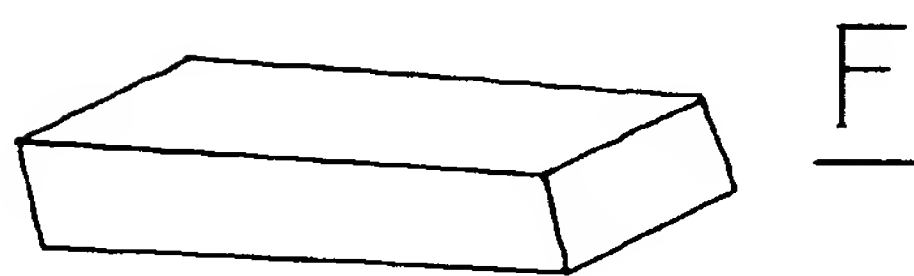
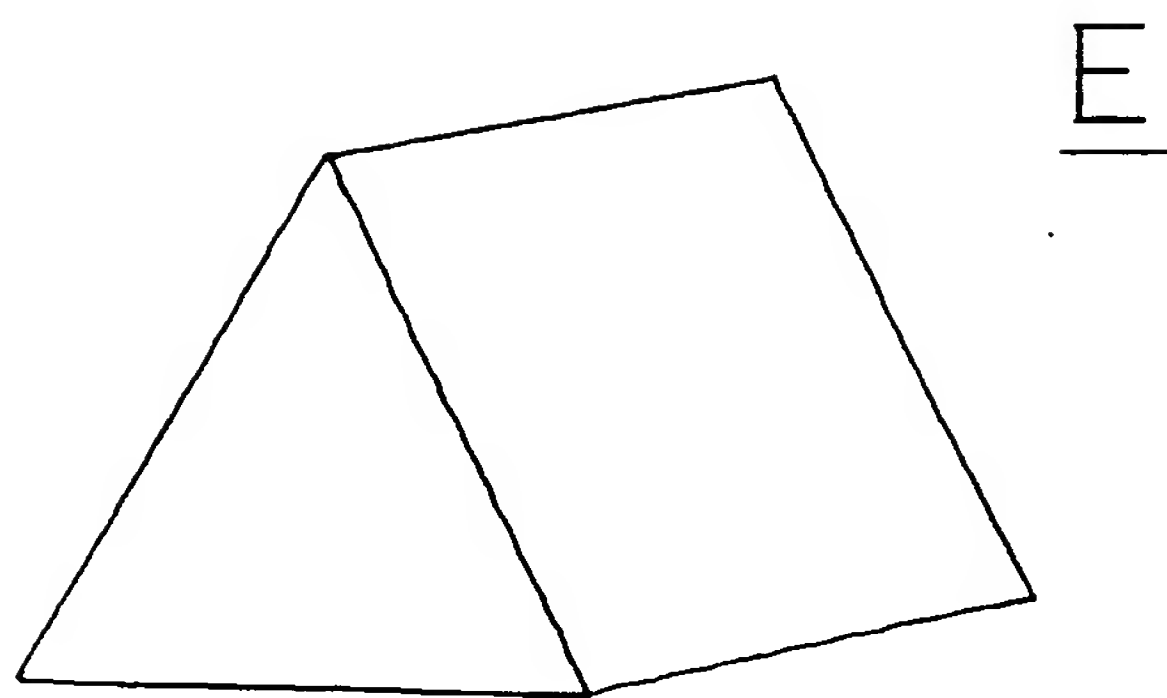


d

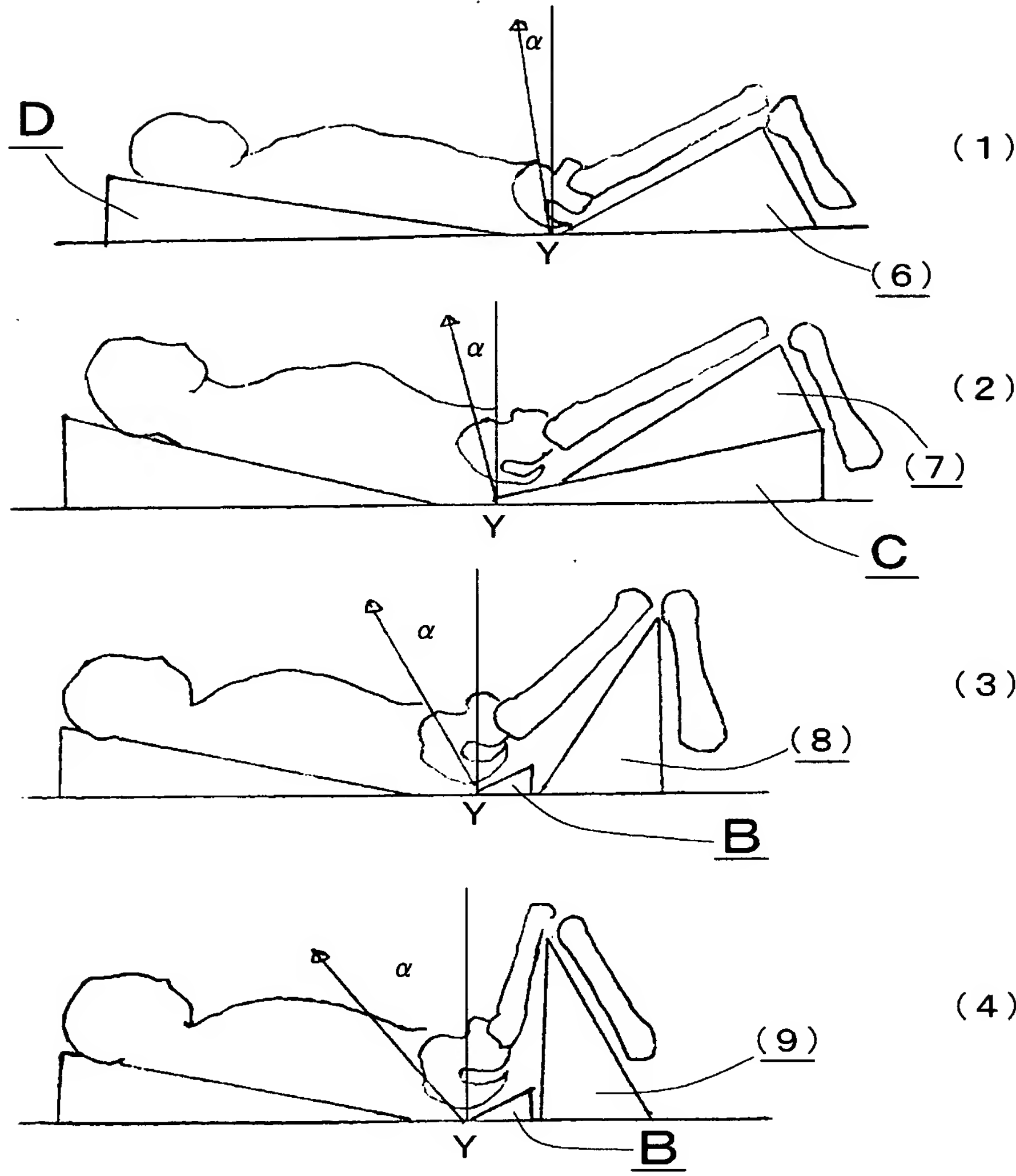
【図 1 0】



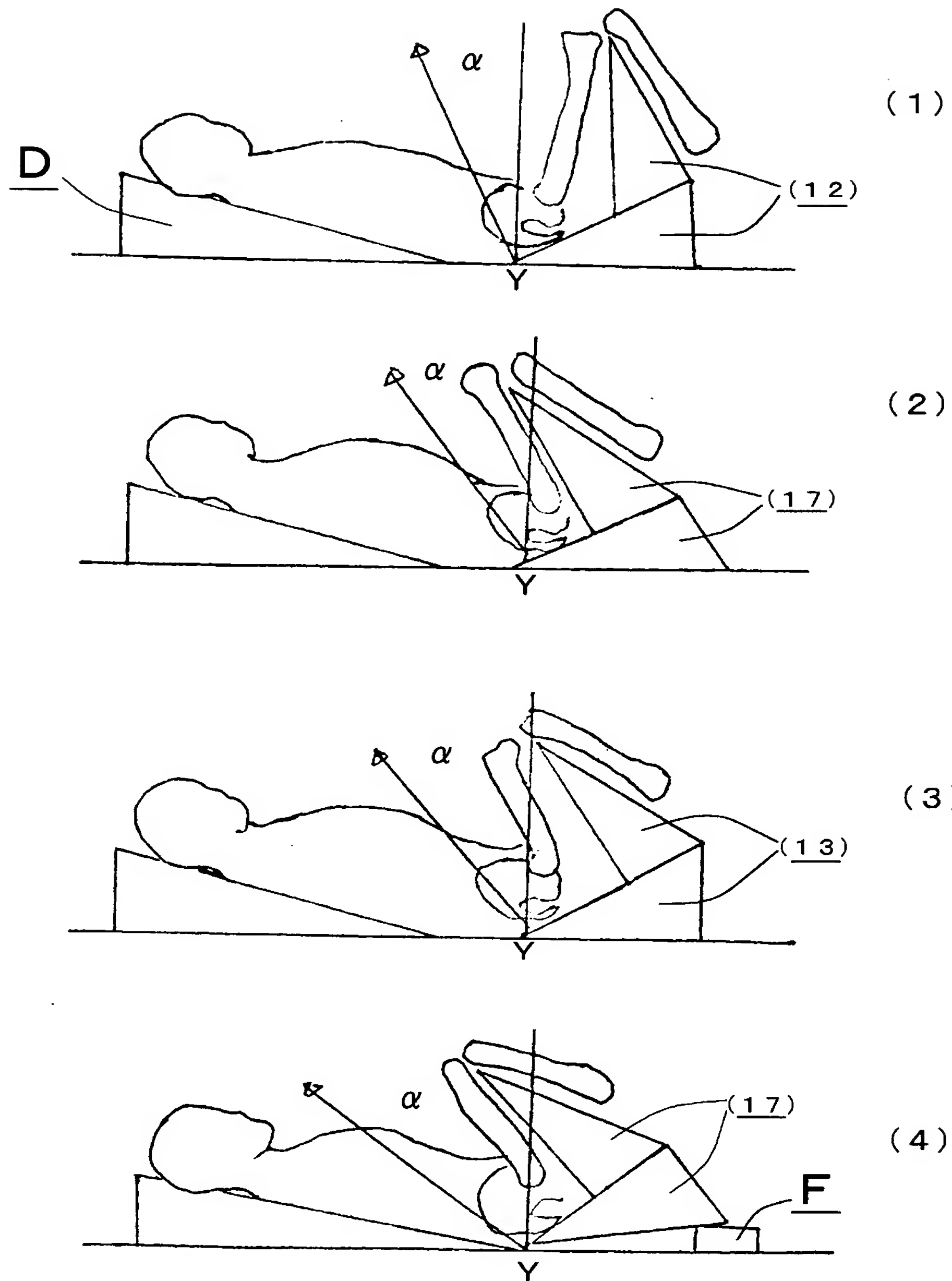
【図 1 1】



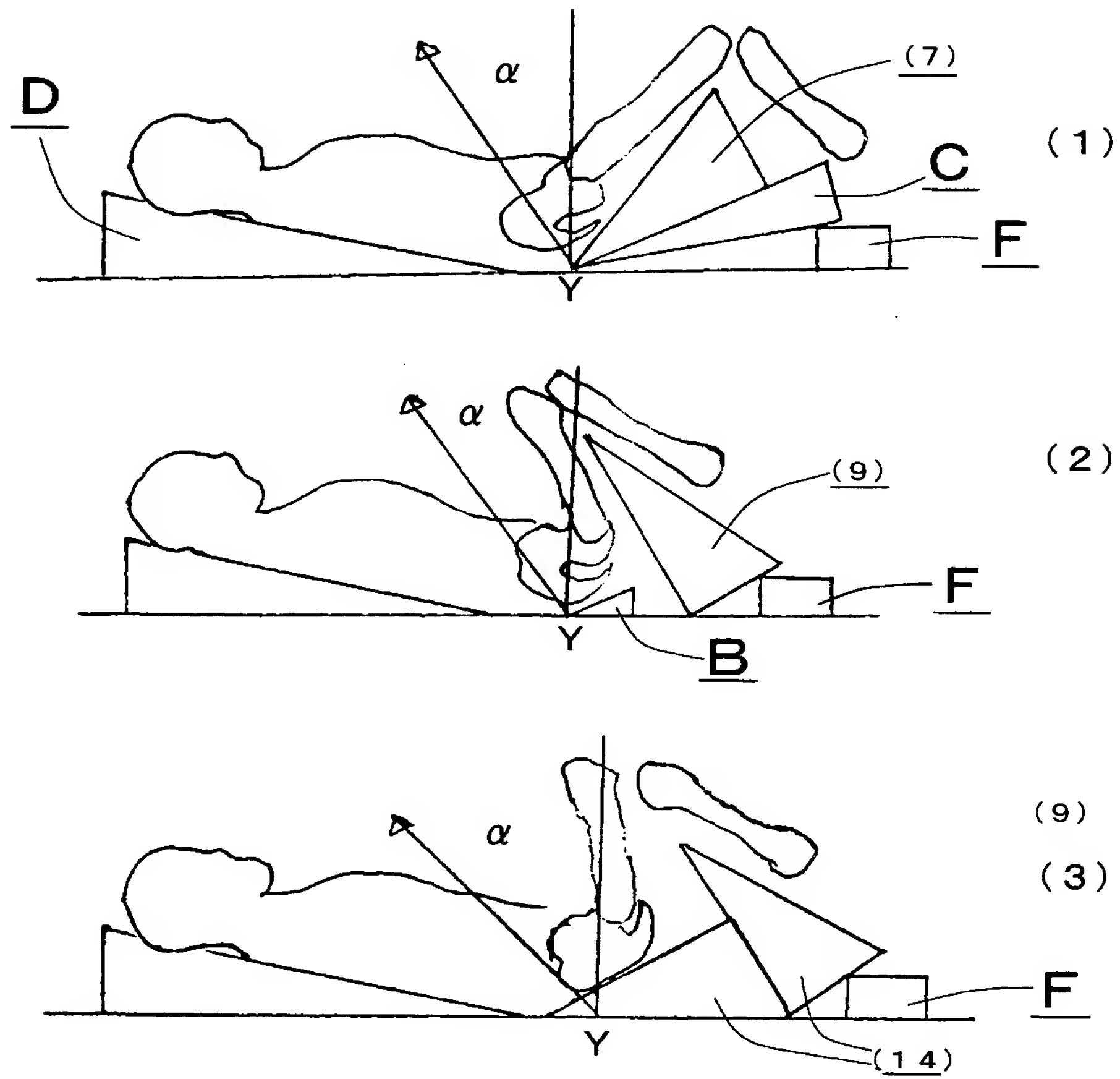
【図 12】



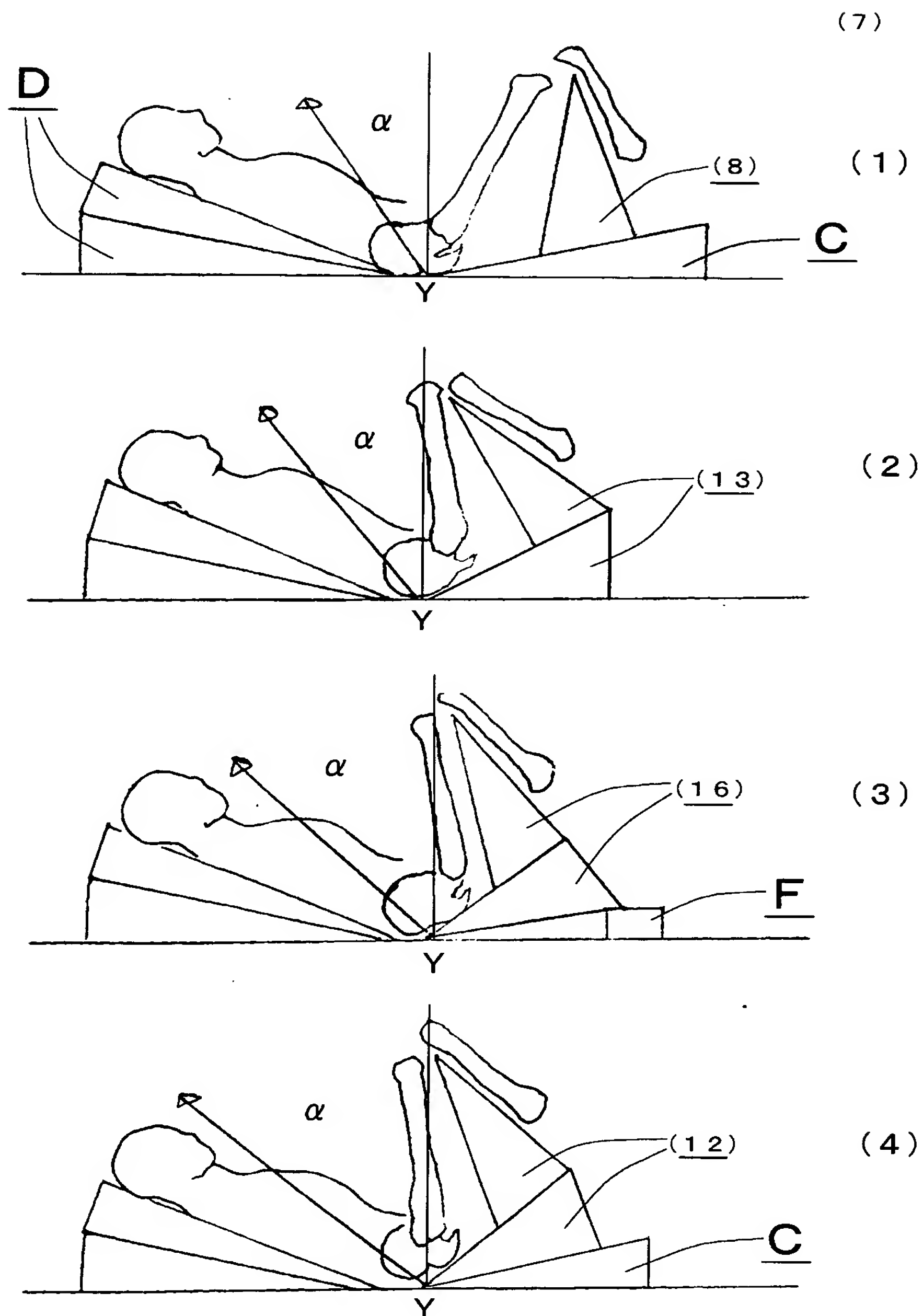
【図 13】



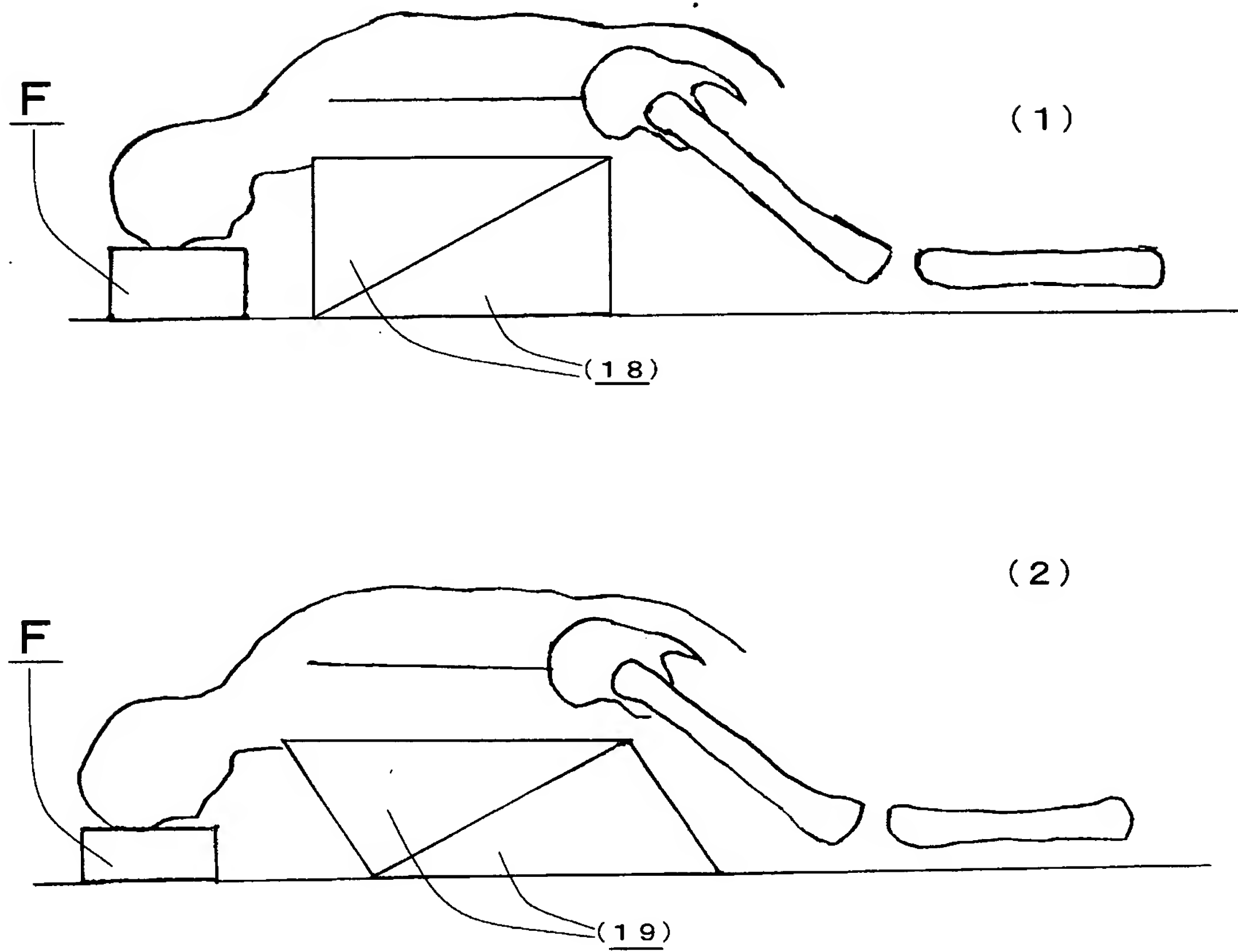
【図 14】



【図 15】



【図 16】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 脊柱の腰仙部における前後方向湾曲状態を真直位迄の間で任意の状態に矯正することを可能とする。

【解決手段】 直角三角柱部材を 2 つ組合わせ、直角稜を面ファスナーにより分離可能に接合し、この部分を回転自在として機能させ、直角稜に対抗する短辺の端面に面ファスナーを設けた可変三角枕 A を単独で、あるいは直角三角柱部材に分離して使用し、さらに、断面形状が楔形で、横幅が体幅程度であり、楔形の先端を腰仙部に当てた時に、臀部を覆う長さの短寸楔形マット B、膝までの長さの中寸楔形マット C、および頭頂部覆うまでの長さの長寸楔形マット D 有する 3 種の楔形マット、並びに公知の角枕 F を組合わせて使用することにより、個人差・体型差に応じて、腰仙部の前後方向湾曲状態を真直位迄の間で任意の状態に矯正することを可能とする。

【選択図】 図 1

【書類名】 手続補正書

【整理番号】 P14010S-2

【提出日】 平成15年 6月 9日

【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿

【事件の表示】

 【出願番号】 特願2002-248038

【補正をする者】

 【識別番号】 301012771

 【氏名又は名称】 有限会社 誠 心

 【代表者】 関澤 義信

【代理人】

 【識別番号】 100116735

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 大里 一幸

【手続補正 1】

 【補正対象書類名】 明細書

 【補正対象項目名】 0 0 0 9

 【補正方法】 変更

 【補正の内容】 1

【手続補正 2】

 【補正対象書類名】 明細書

 【補正対象項目名】 0 0 1 6

 【補正方法】 変更

 【補正の内容】 2

【提出物件の目録】

 【包括委任状番号】 0102887

【プルーフの要否】 要

【 0 0 0 9 】

【実施例 1】

本発明の可変三角枕 A は、図 1 の A に示すように、断面形状が長辺 3 7 c m と短辺 2 0 c m とを有する直角三角形からなる直角三角柱部材 1 a、1 b を 2 つ用意する。また、幅 5 . 0 c m の面ファスナー 2 を用意する。そして、直角三角柱部材 1 a、1 b の直角稜から長辺側にかけて幅 2 . 5 c m の面ファスナー 2 a、2 b を取り付け、さらに、直角稜と短辺とからなる面の直角稜に対抗する端面に、各々幅 2 . 5 c m の面ファスナー 3、4 を取り付ける。

この様にして用意した前記直角三角柱部材 1 a、1 b を 2 つ、短辺同士からなる面をつきあわせ、直角稜から長辺側に張り付けた面ファスナー 2 a、2 b に面ファスナー 2 を張り合わせて、直角三角柱部材 1 a、1 b を 2 つ組合わせ、その直角三角柱の直角稜を回転自在、かつ、着脱自在に接合する。

また、直角稜と短辺とからなる面の直角稜に対抗する端面に取り付けた面ファスナー 3、4 により、短辺同士からなる面を、面ファスナー 2 と面ファスナー 3、4 とで強固に固定できるようにする。

この可変三角枕 A を構成する部材は、表面は皮、擬革あるいは布等の公知の材料であり、内部はスポンジ、発泡体等の公知の材料からなるものである。

この実施例 1 では、可変三角枕 A の断面形状は、長辺 3 7 c m、短辺 2 0 c m としたが、この可変三角枕 A の断面形状は、長辺 3 4 c m、短辺 1 8 c m、あるいは長辺 3 9 c m、短辺 2 1 c m でも良く、必要に応じて、適宜変更できるものである。

【 0 0 1 6 】

【実施例 4】

本発明において、可変三角枕 A と併用して使用する 3 種の楔形マットは、特願 2 0 0 1 - 1 5 1 3 7 3 号に記載したものと同一である。

即ち、短寸楔形マット B は、図 7 の B に示すように、断面形状が直角三角形であり、その直角辺の一边の長さが 1 0 c m、他の一边の長さが 1 5 c m であり、横幅が 4 5 c m の三角柱状をしている。

中寸楔形マット C は、図 7 の C に示すように、断面形状が直角三角形であり、その直角辺の一边の長さが 1 0 c m、他の一边の長さが 5 0 c m であり、横幅が 4 5 c m の三角柱状をしており、長辺からなる面を上にして大腿部を受ける浅い長径の凹部 5 を直角辺同士で作られる面に設けている。

長寸楔形マット D は、図 7 の D に示すように、断面形状が直角三角形であり、その直角辺の一边の長さが 1 0 c m、他の一边の長さが 5 5 c m であり、横幅が 4 5 c m の三角柱状をしており、長辺からなる面を上にして頭部を受ける浅い凹部 6 を上面に設けている。

これら 3 種の楔形マットを構成する部材は、表面は皮、擬革あるいは布等の公知の材料であり、内部はスポンジ、発泡体等の公知の材料からなる。

なお、実施例 3 においては、楔形マットの長さを各々具体的に数値で規定しているが、本発明において併用して使用する 3 種の楔形マットは、この長さ限定されるものではなく、個人差・体型差の応じて、適宜変更が可能であることは当然である。

【書類名】 手続補正書
【整理番号】 P14010S-2
【提出日】 平成15年 7月 9日
【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿
【事件の表示】
 【出願番号】 特願2002-248038
【補正をする者】
 【識別番号】 301012771
 【氏名又は名称】 有限会社 誠 心
 【代表者】 関澤 義信
【代理人】
 【識別番号】 100116735
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 大里 一幸
【手続補正1】
 【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 0 0 0 2
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 2】
 【従来技術】

従来、床またはベット上で使用する整体治療用補助具としては、膝枕や角枕がある。膝枕は、辺の長さが25 cm×27 cm×30 cmの三角形断面であり、横幅の長さが40 cmの三角柱状のものが市販されている。その具体例を図11のEに示す（以下、膝枕Eという。）。この膝枕Eは、仰臥時において、下肢の裏面に使用するものである。角枕は、辺の長さが8 cm×13 cm×33 cmの四角柱状のものが市販されている。その具体例を図11のFに示す（以下、角枕Fという。）。また、他に、治療用ベッドに顔を入れる穴がない場合に使用する胸当てパッドがある。胸当てパッドは、断面形状が胸に当てる部分が楔形で、顔の部分が矩形であり、横幅が体幅程度であり、矩形部分の中央には顔が入るU字形の切り込みが形成されている。これらの治療用補助具は、いずれも治療師が治療中に使用するものである。

特願 2 0 0 2 - 2 4 8 0 3 8

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[3 0 1 0 1 2 7 7 1]

- | | |
|----------|--------------------------|
| 1. 変更年月日 | 2 0 0 1 年 2 月 2 6 日 |
| [変更理由] | 新規登録 |
| 住 所 | 茨城県古河市横山町 3 丁目 1 番 2 6 号 |
| 氏 名 | 有限会社誠心 |
| 2. 変更年月日 | 2 0 0 3 年 7 月 9 日 |
| [変更理由] | 住所変更 |
| 住 所 | 茨城県猿島郡総和町上辺見 3 0 3 3 |
| 氏 名 | 有限会社誠心 |